

村治重厚
 熊谷直温
 安藤正胤
 正校
 原病學通論
 五

〒 3
 1362
 5



原病學通論卷之八目次

目次

補給機變化ニ基ケル諸病中

補給機増盛上

第一、結締織新生

第二、脂肪組織肥大

第三、骨組織新生

第四、軟骨新生

第五、筋新生

第六、神經組織新生



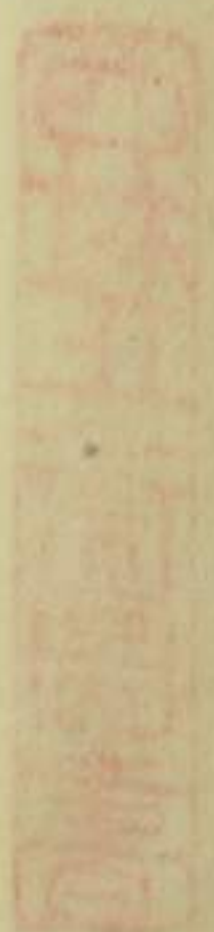
91-1961

第七、外皮及内皮セル新生
第八、腺組織肥大

原病學通論卷之八目次畢



原病學通論卷之八
和蘭教師 亞爾蔑聯斯 講述
東京 熊谷直温 筆記
全 藤正胤 筆記
補給機變化ニ基ケル諸病中
補給機増盛上
前條既ニ論述セル組織ノ萎縮、變性、及異物浸潤
等ハ皆組織原分ニ營養不給ト機能ノ妨碍トヲ
以テ徵知ス可シ故ニ之ヲ減衰變性トシテモレ





原病學通論 卷之八
 シルホト云フ之ニ反シテ組織原分ノ營養旺盛シ
 テ新ニセルヲ發生スルヲアリ之ヲ**増盛變性**ト
 グリスシト云フ此セルハ其組織ノ原分ト
 タモルホシト云フ此セルハ其組織ノ原分ト
 同一ナルヲアリ或ハ全ク異ナルヲアリ甲ヲ同
 質新生ト稱シ乙ヲ**異質新生**ト稱シ
 ト稱ス此異質セルハ常態組織ノ間隙ニ分散シ
 テ生スルヲアリ之ヲ**撒布新生**ト云フ或ハ特立
 ノ塊トナリテ生スルヲアリ之ヲ**限界新生**ト云
 フ所謂腫瘍是ナリ又セルヲ新ニ生シテ頽廢
 セル組織ヲ補償スルヲアリ之ヲ**再生**ト稱ス健

體ニ於テハ諸器皆再生ス例ハ毛髮爪甲内皮外
 皮筋肉血液等ハ其老廢スルニ隨ヒテ之ヲ補償
 スルカ如シ病體ニ在リテモ亦組織ノ失却後
 再生スルヲアレハ再生セル組織ニ真偽ノ別ア
 リ即失却セル組織ト同一ノ者ヲ生スルハ之
 ヲ**真再生**ト稱シ或ハ全ク異性ノ組織ヲ生スル
 中ハ之ヲ**偽再生**ト云フ例之ハ甲ハ爪甲ノ代謝
 スルカ如ク乙ハ創傷後ノ瘢痕組織ニ於ルカ如
 シ又組織ノ同質新生ニ由リテ其容積ヲ増ス
 テリ之ヲ**肥大**ト稱ス

原病學通論 卷之八 三十一

第一、結締織新生

此新生ハ其質一ナラス、故ニ之ヲ分チテ、三種ト
 ス、**甲**、纖維質結締織ハ其新ニ生スルヤ、纖維悉、束
 ヲ成シ、互ニ密接シテ間隙ナク一塊ヲナス者アリ、
 或ハ間隙ヲ存シテ、澄液、或ハ脂球、或ハ軟骨組
 織、或ハ骨組織ヲ含蓄スルヲアリ、**乙**、**無織結締織**
 ハ、時アリテ發スルヲアリ、其質唯、清澄ニシテ、纖
 維、或ハ粒狀物ヨリ成ル者ニ非ス、唯、膜狀、若クハ
 大塊ヲナシ、**殆**、腸ノ管狀腺、神經纖維ノ莖膜、眼球
 ノ界膜、毛細管ノ壁等ト同一ナリ、**丙**、**傑列乙質結**

締織ハ、新生スルコト稀ナリ、其組織ハ、傑列乙狀ノ
 物質ト、星芒狀セルヨリナリ、此セル、傑列乙狀物
 中ニ在リテ、互ニ繋合セリ、**殆**、生理學的ニ視ル所
 ノ眼球硝子體、臍帶中ノ傑列乙質ニ同シ、又胎兒
 ノ皮下ニ、之ト同質ノ物アリテ、大人ノ皮下結締
 織ニ代ルコトアリ、以上三質ハ、皆新生ス可キ者ニ
 シテ、殊ニ纖維質ノ者ヲ多シトス、而シテ其新生
 スル片ハ、血管モ亦共ニ新生ス、例之ハ、癩痕組織
 ノ如シ、此等ノ結締織、新生スルノ方、三樣アリ、乃
 甲ハ、結締織再生、乙ハ、結締織肥大、丙ハ、結締織腫

傷是ナリ、

甲、結締織再生ハ、創傷後ノ癥痕組織ニ於テ、之ヲ見ル、前條既ニ細論スルカ如シ、故ニ贅セス、

乙、結締織肥大ハ、概諸器ニ之ヲ發シ、器械、硬固トナリテ膨大シ、初起ニハ、通常其官能ヲ多ク障碍セスト雖、後組織收縮シ、尿管モ亦共ニ收縮スルヲ以テ、貧血ヲ發シ、由リテ必、官能ノ障碍ヲ來スニ至ル、其因ハ、通常器械ノ虚性充血ナリ、或ハ水脈ノ吸收廢止、或ハ慢性炎ニ由ル、然レモ、其因リテ發スル所以ノ理ハ、知り得ヘカラサル者多シ、

肥大ノ最生シ易キ部ハ、真皮ノ結締織ナリ、其肥大、唯、真皮ノミナルアレモ、表皮モ亦共ニ肥大スルコト多シ、之ヲ鱗屑狀肥大表皮剝離シテ、恰モ鱗屑ノ如キヲ謂フ、

ト云フ、或ハ同時ニ真皮ノ乳頭モ亦肥大スルコトアリ、然ルモ、軟性、若ハ硬性ノ贅肉、或ハ疣等ヲ生ス、或ハ毛髮、色素等、同時ニ肥大スルコトアリ、然ルモ、所謂母斑ヲ生ス、或ハ皮下結締織、同時ニ肥大スルコトアリ、例之ハ、象脚症、或ハ癩病ニ於テ、皮膚ノ増大スルモ、如シ、粘膜モ亦肥大不可シ、唯、其結締織ノミ、肥大スルコトアリト雖、極テ稀ニ

シテ、多クハ内皮セル、粘液腺モ共ニ肥大シ、時アリテ、筋層モ亦肥大スルヲアリ、此肥大ハ、撒布性ト限界性トアリ、乙種ハ、例ハ、鼻腔、子宮等ノ粘膜加多爾後ニ「ポリ」プロ生スルカ如シ、是其粘膜ノ、肥大セル者ニ他ナラス、而シテ若シ纖維質結締織ヲ含メハ、所謂硬性「ポリ」プロ生シ、或ハ多ク傑列乙質結締織ヲ含メハ、軟性「ポリ」プロ生ス、一ニ纖維質粘液質ノ名稱アリ、甲種ハ、例之ハ、氣管枝慢性炎後ニ、其粘膜ニ生シテ、兩肺悉肥大シ、胃慢性加多爾後ニ、胃ノ肥大ヲ起スカ如シ、膀胱

モ亦然ルヲアリ、又纖維膜ノ肥大ハ、例之ハ、骨膜神經莖膜、厚腦膜、及脾、肝等ノ莖膜、增厚シ、且、硬固トナルカ如シ、是其近傍部ノ炎ニ續發スルヲ以テ、無織結組織ノ肥大ハ、例之ハ、脾、肺、心、肝、腎、胞外膜、腸ノ撒布腺、及「イ」エ「ル」氏腺ノ内壁ニ、肥大ヲ起スカ如シ、然ルモハ、通常其固有ノ無織組織ヲ失ヒ、肥厚シテ、粒狀ニ變ス、是其腺ノ炎或ハ近傍部ノ炎ニ續發ス、各種ノ腺ニ於テ、結締織肥大スルハ、其腺ヲ硬變ス、是、腺實質セル間ハ、結締織ニ慢性炎ヲ發シ、結締織肥大シテ、後收縮スル

ヲ以テ、實質ノセル、萎縮スルニ由ル、而シテ概諸
 腺ニ於テ之ヲ視ル、例之ハ、乳房腺、水脉腺ノ如シ、
 殊ニ專要ナル者ハ、肝臟硬變ニシテ、遂ニ腹水ヲ
 將來ス可シ、肺ニ在リテモ亦須要ナリ、其硬變ハ
 氣管枝ノ周圍、或ハ血管周圍ノ結締織、肥大シ、又
 其小葉間、或ハ氣胞間ノ結締織、肥大スルニ由ル、
 其因、多クハ慢性氣管枝炎、慢性胸膜炎、或ハ心臟
 病ニ由レル肺ノ慢性充血ナリ、氣胞間ノ結締織、
 增厚スルハ、先、互私ノ交換ヲ妨碍シ、次テ結締
 織、收縮スルニ至レハ、氣胞弛緩シテ、彈力ヲ失フ

ヲ以テ、呼氣ノ後、雖、收縮スル、其ノ之ヲ肺氣

腫ト云フ、其後氣管枝間ノ結締織、亦收縮スル
 ヲ以テ、氣管枝開展シ、終ニ肺ノ血行、不全トナリ
 テ、全身水腫ヲ誘發ス、心病ニ由リテ、肺、肝、脾、腎等
 同時ニ硬變スルコトアリ、是、其諸器ニ虚性充血ヲ
 起スニ由ル、又全身梅毒ノ末期ニ至リテ、組織間
 ノ結締織、肥大スルコトアリ、例之ハ、睾丸組織間ノ
 結締織、肥大シテ後收縮シ、睾丸ノ硬變ヲ起スガ
 如シ、肺組織間ノ結締織、肥大ニ蓋、亦梅毒ニ由ル
 者アリ

丙、結締織腫瘍ハ、結締織ノ限界肥大ヲ起シテ、多
 少圓形ヲナス者ニシテ、概諸腫瘍ニ放テ、結締織
 其囊ヲナシ、又之ヲ分チテ、中隔ヲ形成ス、腫瘍ノ
 總テ結締織ヨリナリ、或ハ然ラサルモ、多分之ヨ
 リ成ル者ヲ爰ニ論セントス、**其一、纖維質瘤**ハ、纖
 維質結締織ノ新生ヨリ成レル圓形ノ腫瘍ニシ
 テ、大小同シカラス、小ハ指頭ノ如ク、大ハ兎頭ノ
 如キニ至ル者アリ、硬固ニシテ、壓搾スヘカラス、
 之ヲ截レハ、撥々トシテ聲アリ、通常乾燥シテ、少
 許ノ血管ヲ有シ、帶黃白色ナリ、其截斷面ヲ檢ス

レハ、結締織ノ纖維錯綜シテ、網狀ヲナシ、僅少ノ
 彈力纖維ヲ混ス、是、最多ク見ル所ノ腫瘍ノ一ニ
 シテ、體中諸部、悉之ヲ生ス、乃、皮膚ニ生シ、細小ニ
 シテ、其數多キヲアリ、或ハ巨大ナルヲアリ、巨大
 ナル片ハ、其重量ニ由リテ、皮膚ヲ緊張ス、其數多
 ヲ皮膚ノ諸部ニ生スルヲアリ、之ヲ**結節狀象皮**
 症ト云フ、又皮下組織、莖膜、骨膜、骨等ニ生ス、其他
 粘膜下結締織ニ生スルヲアリ、例之ハ、鼻腔ノハ
 イモル洞、或ハ子宮内ニ生スルカ如シ、又神經莖
 膜ニ生スルヲアリ、通常極メテ細小ナレモ、神經

ヲ壓迫シテ、劇痛ヲ發ス、之ヲ**神經瘤**ト云フ、又腺ニ生ス、例之ハ、乳房腺ノ如シ、○此腫瘍ハ、善性ニシテ、直ニ全身ヲ侵ス、ナク、之ヲ截去スレハ、再生セス、唯、漸次ニ増大スルヲ以テ、其局部ニ患害ヲナス、例之ハ、**ボイモル洞**ニ生スレハ、上顎ヲ壓迫シテ、萎縮セシメ、或ハ腦ヲ穿ツニ至ルヲアリ、此腫瘍ハ、種々ノ變性ヲ受ク、例之ハ、血液溢出シテ、其實質中ニ色素浸潤、或ハ石灰浸潤ヲ起シ、又脂肪變性シテ柔軟トナリ、或ハ炎ヲ發シ、化膿シテ、全ク周圍ノ組織ヨリ、分界スルカ如シ、此腫瘍

屢子宮ニ生シテ、他部ヨリ分斷シ、兒頭大ノ一塊トナリテ、腔ヨリ漏出スルヲアリ、**此腫瘍**時トシテ、悉結締織ヨリ成ラスシテ、多少他組織ヲ雜ユルヲアリ、乃脂肪組織ヲ混スルヲアリ、之ヲ**纖維脂肪瘤**アリボム、ハイト稱ス、或ハ有機筋纖維ヲ混シ、或ハ多ク血管ヲ交ヘ、又囊腫ヲ混合シテ、其囊中ニ澄液ヲ含有ス、如此ク混合物ノ異ナルニ隨テ、其形同シカラス、由リテ各異ノ名稱アリ、然レハ、今之ヲ各箇ニ論スルヲ要セス、其二、**纖維蜂窠織瘤**ハ、悉結締織ヨリ成ルニ非ス、

其中空洞ヲ存シテ、傑列乙樣液ヲ充實シ、結締織ノ中隔之ヲ區分シテ、許多ノ小葉ヲナス、其或ハ廣布スルヲアリ、或ハ限界スルヲアリ、皮膚又ハ皮下組織ニ之ヲ見ル、例之ハ、陰囊ノ皮下組織ニ生シテ、非常ニ増大シ、下垂シテ地ニ接スルヲアリ、之ヲ陰囊象皮疔ト稱ス、又婦人ノ大陰唇、或ハ子宮ノ粘膜炎下組織ニ生シ、又鼻腔及氣喉ノ粘膜炎下組織ニ生ス、通常之ヲボレト稱ス、此腫瘍ノ空洞中ハ、常ニ澄液ヲ充填スト雖、時トシテ脂肪、石灰、色素、骨組織、或ハ軟骨ヲ含ムトアリ、然ル

ルハ、其形狀モ亦各異ナラザルヲ得ス、其三、傑列乙癭ハ、一ニ粘液瘤ト稱ス、其中隔結締織至細ニシテ、且、寡ナク、甚、幽微ニシテ、星芒狀ヲナシテ存シ、殆、唯、傑列乙樣質ヲ充實スル者ノ如シ、子宮ノ胞衣ニ於テ之ヲ見ル、乃、コリオンノ纖毛リ肥大シ、其中ニ粘液ヲ充テ膨大シテ、宛、葡萄狀ヲナスニ至ル、故ニ纖毛變シテ、粘液瘤トナリ、遂ニ子宮ヨリ漏泄ス、之ヲ胞塊クト稱ス、其大小一ナラス、間、鶏卵大ノ者アリ、其數甚多シトス、其他皮下組織、骨髓、莖膜、及、筋肉等ニ之ヲ見ル、此腫瘍

原形也。其面葉狀ノ看ヲナス、其中
 含有ヒル結締織、或ハ脂肪ノ、多少ニ由リテ、其形
 狀モ亦異同アリトス、其四、血管瘤ハ、多少ノ結締
 織ト、血管トヨリ成ル、此血管、一半ハ、固有ノ血管
 膨大セル者ニシテ、一半ハ、新ニ生スル者トス、一
 ニ勃起瘤ノ名アリ、総テ之ニ充血ヲ起サシムル
 ノ因ハ、皆此瘤ヲ増大シ、暗赤色ヲ呈セシメ、硬固
 トナシ、熱度ヲ増盛シテ、多クハ搏動ヲ起サシム、
 若之ヲ壓搾スルハ、灰白色トナリテ縮小ス、故
 ニ此名アリ、此腫瘍ノ類、三種アリ、**天**富脈母斑

或ハ分娩後、直ニ之ヲ生シテ、生後第一月間ニ増
 大ス、其形狀、通常扁平ニシテ、其面葉狀ヲナシ、帶
 藍赤色ニシテ、其質柔軟ナリ、大抵皆血管ヨリ成
 リ、唯、僅少ノ結締織ヲ具スルノミ、此血管ハ、多分
 膨大セル髮細管ト、靜脈トヨリナレル者ナリ、而
 シテ頭皮、頸皮、四肢等ニ之ヲ生ス、稀ニ粘膜面ニ
 亦生スルヲアリ、例之ハ、唇ノ如シ、或ハ筋骨ニ
 見ルヲアリ、皮膚ノ表面、或ハ深部、即チ皮下結締織
 中ニ在ルヲアリ、又時アリテ、惟、膨大セル髮細管

原形也。其面葉狀ノ看ヲナス、其中
 含有ヒル結締織、或ハ脂肪ノ、多少ニ由リテ、其形
 狀モ亦異同アリトス、其四、血管瘤ハ、多少ノ結締
 織ト、血管トヨリ成ル、此血管、一半ハ、固有ノ血管
 膨大セル者ニシテ、一半ハ、新ニ生スル者トス、一
 ニ勃起瘤ノ名アリ、総テ之ニ充血ヲ起サシムル
 ノ因ハ、皆此瘤ヲ増大シ、暗赤色ヲ呈セシメ、硬固
 トナシ、熱度ヲ増盛シテ、多クハ搏動ヲ起サシム、
 若之ヲ壓搾スルハ、灰白色トナリテ縮小ス、故
 ニ此名アリ、此腫瘍ノ類、三種アリ、**天**富脈母斑

ヨリ成ルコトアリ、或ハ大血管ヨリ成ルコトアリ、蓋
 毛細管ヨリ成ル者ハ、喉表面ニ赤点ヲ呈スルノ
 ニニシテ、隆起スルコトナキモ、大血管ヨリ成ル者
 ハ、隆起ス、或ハ僅ニ一点ヲナスコトアリ、或ハ顔面
 ヲ全ク被覆スルコトアリ、**地**海綿様血管膨大ハ、小
 圓ニシテ、限界セル者アリ、或ハ廣布シテ、扁平ナ
 ル者アリ、其組織ハ、陰莖、肉様尖等ノ海綿組織ニ
 同シ、乃、結締織ノ中隔ヨリ成リ、其間ノ細腔ハ、
 血管充實シ、有機筋纖維ノ収縮ニ由テ縮小ス可
 シ、此空洞ハ、互ニ交通シテ、僅少ノ細動脈ヨリ血

管ノ受ク、此ヨリ帰行スル静脈ハ、數多ニシテ且
 大ナリ、專ラ肝ノ周圍部、及、頭皮ニ之ヲ見ル、或ハ
 稀ニ粘膜、筋骨ニ在リ、此腫瘍ハ、蓋シ甲種ノ更ニ
 強ク發育スル者ナラン、**人**動脈ノ膨大ニ由リテ
 生ス、通常之ヲ**曲行動脈瘤**ト云フ、是、血管膨大シ
 テ螺旋状ヲナス者ニシテ、專ラ頸顚ニ之ヲ見ル、
 殊ニ老者ニ多シトス、

第二、脂肪組織肥大

脂肪組織ハ、結締織ノ網間ニ脂肪ヲ充填セル者
 ニシテ、其肥大スルヤ、汎發スルコトアリ、或ハ局部

ニ限ルコトアリ、故ニ之ヲ汎發肥大ト、局處肥大ト
ニ分ツ

甲、汎發肥大ハ、通常肥満セル人ニ於テ見ルカ如ク、唯、全身ノ結組織中ニ過多ノ脂肪ヲ充盈セル者ナリ、例之ハ、月經閉止セル婦人、或ハ常ニ静坐シテ運動不足ナル者、或ハ酒精ヲ過飲スル人ハ、躰格殊ニ肥満スルカ如シ、

乙、局處肥大ハ、殆、腫瘍状ヲナス、之ヲ脂肪瘤リポマト稱ス、瘤面數多ノ細葉連列スルカ如キ者ヲ呈シ、圓形ニシテ、極テ扁平ナリ、而シテ概子脂肪ヨリ

成レリ、此脂肪ハ、瘤ノ基形ヲ造レル、結締織囊中ニ在リテ、此囊ヨリ生セル中隔ノ間ヲ占ム、各一個ノ葉ヲナス、尋常ノ腫瘍ハ、多ク此瘤ヨリ成ル若、結締織ノ中隔、許多ナル氏ハ、硬性脂肪瘤ヲナシ、少ナケレハ、軟性脂肪瘤ヲナス、特ニ軟性ニ在リテハ、極テ柔軟ニシテ、外部ヨリ之ヲ壓スレハ、恰波動ノ如キ觸覺アリ、之ヲ偽波動ト稱ス、又時アリテ瘤ノ中隔結締織ノ血管ヲ富有スルコトアリ、之ヲ富脈脂肪瘤ト稱ス、凡テ此等ノ脂肪瘤ハ、常ニ皮下組織ニ之ヲ見ル、殊ニ臀部ニ多シトス、

例ハ、ホッテシトッテシ人ハ、多ク腎部ニ之ヲ發シテ、非常ニ増大シ、特ニ女子ニ多キカ如シ、又背部、頸部、胸膈、腋下等ニ發スルコトアリ、其他筋纖維間ノ蜂窠織、腸間膜、腹膜、關節膜ノ裏面モ亦之ヲ生ス、此脂肪瘤ハ、成長甚、緩徐ニシテ、皮下組織ニ在リテ、其底面甚、潤大ナリ、其若、遊離面ニ在リテ然ルカハ、大抵其重力ヲ以テ、自ラ下垂シテ、皮膚ヲ牽引ス、之ヲ有莖瘤ト稱ス、此種類ハ、敢テ全筋ヲ侵シ、患害ヲ致ス者ニ非ス、

第三、骨組織新生

此新生モ亦種々ノ形状ヲ成ス、乃チ甲、骨質再生、斷骨後ニ之ヲ見ル、乙、骨組織肥大、丙、骨瘤、丁、他組織之化骨是ナリ、夫、真ノ骨組織ト、石灰變性セル組織トハ、必判然區別セサル可カラズ、骨組織ハ、結組織、或ハ軟骨組織ノ變形ヨリ成レル者ニシテ、例之ハ、胎兒ハ、全體ノ骨質、悉軟骨ヨリ造成スルモ、其發育成長スルニ隨ヒ、其軟骨組織中ニ塩類、磷酸石ヲ沈著シテ、圓形ナル軟骨セルヲ星芒狀セルニ變シ、由リテ骨組織ヲ化生シ、又病理的ニテ、結締織ノ化骨スル片モ亦同一ノ變化ヲナス

カ如シ、此星芒状セルハ、常ニ骨組織ノ確徴ニシテ、之ヲ**骨球**ト云フ、互ニ連續シテ骨質ヲ形成ス、此骨質中、又數多ノ細管アリテ、各自ニ脉管ヲ通ス、之ヲ**ラヴェルス**氏管ト云フ、骨組織ハ、其結締織ヨリ化スルト、軟骨セルヨリスルトニ拘ラス、必骨球ト、**ラヴェルス**氏管トノ有ルヲ以テ、其確徴トス、之ニ反シテ、石灰質ノ變性ヨリ成レル組織ハ、唯々無形ノ塩類ヲ含孕ス、故ニ骨組織ノ如ク生活力ヲ有スルナシ、以テ徴ス可シ、

甲、骨質再生ハ、多ク骨ノ創傷或ハ化膿後ニ之ヲ

見ル而シテ全ク再生スル者アリ、或ハ全カラサルアリ、例ハ、鎖骨化膿ノ為ニ消失スルモ、後チ全ク骨質ヲ再生シテ、従前ノ形ニ恢復シ、或ハ梅毒ニ因テ前頭骨膿潰スルノ後、再ヒ骨組織ヲ生スルコト、全カニスシテ、遂ニ陥没セル癩痕ヲ貽スカ如シ、創傷ノ後、斷骨ノ骨質ヲ再生スルニ、其化膿セスシテ、直ニ骨質ヲ再生シテ、癒著スル者アリ、或ハ化膿後ニ、新骨ヲ生シテ癒合スル者アルコト、恰軟組織ノ第一癒合ト、第二癒合トアルカ如シ、化膿セスシテ、再生スル者ハ、骨ノ挫折部ノ骨膜

之ヲ外部假結合織ト稱ス、骨ノ髓管中モ亦同一ノ物質ヲ以テ充填ス、之ヲ内部假結合織ト稱ス、共ニ自ラ凝結シテ、一時折骨端ヲ接合スルヲ以テ此稱アリ、此溢血ハ、速ニ吸収セラレ、斷骨面ニテ、血管ヲ有テル肉芽トナル、恰モ軟骨組織ニ於ケルカ如ク對向二面ノ肉芽相接シテ、殆、鋸齒ノ交錯スルカ如シ、次テ脈管、互ニ吻合シテ、終ニ結締織ニ化シ、其収縮スルニ由リテ、折骨ノ二面ヲ近接シ、遂ニ其組織間ニ、石灰塩類ヲ沈著スレハ、化シテ、骨組織トナルヲ見ル、此再生組織ヲ名ツ

ケテ、永久結合織ト云、骨ノ外表ノニナラス、骨髄ノ髓管内モ亦生スル者トス、又時有テ彼ノ結締織ハ、直ニ骨組織ニ變化セバシテ、一回纖維軟骨トナリテ後骨組織トナルトアリ、此癒合ノ方法ハ、獸類ノ跡ニ於テ之ヲ見ル、試ニ某獸ノ骨ヲ切斷スレハ、最初結締織ヲ生シ、一旦纖維軟骨トナリテ後、化シテ骨組織トナル、彼ノ永久結合織ハ、最初骨髓管ヲ充填シ、又外部ヲ圍繞シテ、瘤状ヲ成スモ、多クハ吸収セラレ、髓管故ニ復シテ、瘤モ亦漸次ニ消失ス、骨ト骨膜ト共ニ破傷スルカ如

キ大傷ニ在リテハ、結合織ハ骨ニ變化セズシテ、
 結締織ノ形状ヲ保持ス、故ニ損傷セル骨間ハ唯
 結締織ヲ以テ繋合シテ、多少ノ運動ヲ與フ之ヲ
 假關節ト云フ、多クハ後ニ軟骨組織ヲ齒骨面ニ
 被ヒ、其周圍ハ囊靱帶ノ如キ若ク生シテ、殆、真ノ
 關節ノ如シ、例之ハ、肩胛關節、腕臼シテ、其込傍ニ
 於テ更ニ關節ヲ形成スル片ハ、骨端ノ摩擦ニ由
 リテ、軟骨組織ヲ生スルカ如シ、骨軀漸折ノ後チ、
 其本位ニ復セズシテ互ニ齟齬シテ癒合スル片
 ハ、其結合組織ノ吸収、不全ニシテ、不整ナル大塊

ヲ遺シテ瘤状ヲナス、若骨ノ關節部ヲ截除スル
 片ハ骨面互ニ結合織ヲ以テ繋合シ、時アリテ骨
 質ニ化スルモ、多ク結締織ノ状態ニテ存ス、例ハ、
 關節炎、創傷、銃創等ニ罹ル片、其骨ヲ關節部ニテ
 截斷シ去リテ、骨端ノ互ニ癒著スルカ如シ、骨ノ
 化膿後ハ、骨組織ヲ再生ス、然レモ、多クハ故骨ヨ
 リ大ナリトス、例之ハ、化膿骨膜炎後ニ於ケルカ
 如シ、乃骨膜炎ニテ膿ヲ醸生シ、其膿、骨膜ト骨ト
 ノ間ニ鬱積シテ、骨膜ヲ骨面ヨリ分離スル片ハ、
 骨ノ一部、或ハ全骨ノ壞死スルコトアリ、而シテ炎

消散ノ後骨膜ノ裏面ニ新骨ヲ生シテ死骨ヲ被包ス、此死骨ヲセクエストリュム今離セルト云フ、通例新生ノ骨ハ其形不整ニシテ、稜角或ハ瘤状ナリ、

乙、骨組織肥大 ハ、全身諸骨盡、肥大スルコトアリ、偉丈夫ノ體ニ於テ之ヲ見ル、又弓處ノ肥大ヲ發スルコトアリ、乃、勞動力作スル工人ハ、筋ノ附著点ニ於テ、骨ノ肥大ヲ起スカ如シ、又病後ニ之ヲ來スコトアリ、例之ハ、腦水腫ニテ、頭顱骨、肥大シ、或ハ骨膜炎ニテ、新骨ヲ以テ死骨ヲ被包シテ、全骨ノ容

積ヲ増大スルカ如シ、然ル片ハ、骨面種々ノ形状ヲナス、乃、面上、許多ノ圓形ナル小突起ヲ生シ、或ハ稜角突起ヲ羅列シ、又或ハ凸凹不整ナルコトアリ、例之ハ、梅毒性骨膜炎後ニ於ケルカ如シ、

丙、骨瘤 オマテハ、緻密骨質ヨリナルコトアリ、或ハ

多ク海綿質ヲ含有スルコトアリ、甲ヲ**硬性骨瘤**ト稱シ、乙ヲ**海綿質骨瘤**ト稱ス、又或ハ瘤中、髓管ヲ有シテ、骨髓ヲ含有スル者アリ、之ヲ**孕髓骨瘤**ト稱ス、骨瘤ハ、處ヲ擇ハスシテ各處ニ生ス、殊ニ長骨及骨盤諸骨ニ多シトス、或ハ肺臟ニ生スルコト

アリ、是、恐クハ、氣管枝軟骨ノ化骨スル者ナラン、
其他厚腦膜、腦ノ實質、或ハ眼球鞏膜等モ亦之ヲ
發スルヲアリ、

丁、他組織之化骨ハ、結締織、膜、莢膜、心臓瓣膜ノ結
締織、動脈大管ノ壁等ニ之ヲ生シ、炎后ニ關節近
傍ノ結締織モ亦之ヲ發ス、特ニ心臓瓣膜、或ハ動
脈大幹ノ化骨スル氏ハ、大抵石灰變性ヲ兼發ス、
之ヲ「アテロマト」云フ、又結締織ヨリ成レル偽膜
ノ化骨スルヲアリ、例之ハ、胸膜間ノ偽膜ニ於ケ
ルカ如シ、其他皮膚ノ癩痕組織、及、瘡ノ結締織、變

シテ骨質トナルコトアリ、專ラ骨質中、或ハ其近
傍ニ生スル者トス、例ハ、纖維軟骨瘤ニ於ケルカ
如シ、又軟骨變シテ骨組織トナルヲアリ、例ハ、胎
スルニ隨ヒテ、其軟骨化、或ハ軟骨ノ慢性炎後ニ
之ヲ見ル、例之ハ、氣喉及、氣管枝軟骨ノ慢性炎
後ニ視ルカ如シ、又斯ノ如ク軟骨ノ化骨セルヲ
瘤中ニ省ルヲアリ、

第四、軟骨新生

此症ハ、常ニ結締織ノ新生ト共ニ之ヲ省ル、軟骨
ハ、一回之ヲ失ヘハ、更ニ生スルヲナシ、例之ハ、関

節軟骨ハ、一回之ヲ失ヘハ、唯、結締織ヲ生スルノ
 三、真ノ軟骨ヲ生スルコトナキカ如シ、軟骨組織ノ
 新生ハ、斷骨後ニ生スル軟骨状結合織、及、關節脱
 臼ノ後ニ形成セル新關節ニ於テ、之ヲ見ル、又軟
 骨、炎ノ為、ニ肥大スルモ亦此軟骨ノ新生ニ由ル
 ナリ、例之ハ、氣喉、氣管及、氣管枝軟骨ノ、慢性炎ニ
 罹レルヤノ如シ、其他關節ノ慢性炎或ハ水腫ニ
 由リテ、關節内ニ遊離セル軟骨ノ小圓塊ヲ新生
 ス、之ヲ**遊離躰**ト云フ、此小圓塊ハ、關節膜ノ反展
 部ニ生シ、最初ハ、此膜ト結合スレバ、後ニ遊離ス、

常ニ數多アリ例ハ、膝關節ニ於テ、見ルカ如シ、又
 軟骨ノ瘤状ヲナシテ新生スルコトアリ、之ヲ**軟骨**
瘤ト云フ、ト云フ、圓形ニシテ、大塊ヲ成スルヤ
 リ、此軟骨瘤ハ、數種アリ、其一ハ、**硬性軟骨瘤**ニシ
 テ、乃、瘤ノ中隔、纖維質結締織ヨリ成リ、其内ニ軟
 骨ヲ含有セル者ナリ、其二ハ、此瘤ノ中隔、傑列乙
 質結締織ヨリ成ル者、之ヲ**軟性軟骨瘤**ト云フ、此
 兩種ノ瘤ハ、先天ニテ生スルコトアリ、例之ハ、嬰兒
 ノ指骨ニ之ヲ見ルカ如シ、壯年ノ者ニハ、殊ニ長
 骨ニ多シトス、例之ハ、大腿骨、小腿骨、輔腿骨、上膊

骨、骨盤、諸骨、肋骨等ノ如シ、他ノ諸骨ニモ稀ニ見
ルコトアリ、又結締織ヲ富有セル部、即筋ノ纖維間
結締織、或ハ腺ノ中隔結締織ニ於テ、之ヲ見ル、例
之ハ、睪丸中ニ之ヲ發シ、其甚シキニ至レハ、増大
シ垂レテ膝部ニ達シ、硬ニシテ甚重ク、之ヲ扛擧
スルニハ、二人ノ力ヲ要スルニ至ル、又耳下腺、或
ハ肺ノ結締織、或ハ卵巢ニ生スルカ如シ、特ニ卵
巢ニ生スル者ハ、概シ其中ニ膿瘍ヲ雜シ、膏ニ軟骨
瘤ノミナラス、他ノ諸病モ亦常ニ膿瘍ヲ含ム者
ナリ、

第五、筋肉新生

甲、筋肉再生ハ、重症熱病ノ後ニ、之ヲ見ル、乃熱ノ
經過ノ際、筋質多ク脂肪變性シテ、吸収セラレ、患
者大ニ瘦削スルモ、疾病快癒スレハ、再ニ消失セル
部ニ筋ヲ生シテ故ニ復ス力如シ、然レハ、創傷後
ニハ、再ニ其部ニ筋ヲ生セスシテ、唯、結締織ヲ生ス
是、恐クハ、竟ニ再生セザル者ナラシ、
乙、筋肉肥大ハ、乃、勞作スル工夫ノ四肢ノ筋、肥大
シ、又心臟ノ瓣膜不全症ニテ、新ニ筋纖維ヲ生シ、
其容積増大シテ、二倍トナル、是、辨ク閉鎖作用ヲ

助ケンカタメナリ、之ヲ扶助ノ肥大ト云フ、又之
ト同シク、肺臓ニ疾病アルハ、心ノ肥大ヲ見ル、
其他舌筋ノ肥大スルヲアリ、其原由ハ、明カナラ
サレ、其シキハ、口ヨリ出テ外ニ露出スルヲア
リ、允テ筋ノ肥大ハ、啗ニ固有ノ筋纖維、肥大スル
ノミナラス、新ニ筋纖維ヲ生スル者ナラシ、不隨
意筋モ亦肥大スルヲアリ、例之ハ、膀胱ノ慢性炎、
或ハ結石、或ハ尿道挾搾等ニ於テ、膀胱ノ筋層肥
厚シ、又妊娠時ニ子宮ノ筋壁、増厚スルカ如シ、其
他概、允テ粘膜ノ慢性炎ニ於テハ、粘膜下筋纖維

ノ肥大ヲ見ル、
丙、筋肉瘤ハ、筋纖維ノ新生シテ、瘤状ヲナス者ナ
リ、此、通常不隨意筋ヨリ成レル者ニシテ、隨意筋
ヨリ成レルハ、甚、稀ナリ、其全ク筋纖維ノミヨリ
生スル者アリ、例之ハ、子宮ノ筋纖維ノ如シ、或ハ
結締織ヲ混スル者アリ、亦子宮ニ生スルヲアレ
ル、多クハ胃管、胃、及、陰囊ニ在リ、

第六、神經組織ノ新生

甲、神經組織再生ハ、創傷後ニ之ヲ見ルト雖、唯、細
小ナル創傷ニ於テ然リ、若、創傷ノ直径、ニセ、ニチ、

マ、ト、ル半ニ過クル片ハ、唯、結締織ヲ生スルノ
三、神經組織ヲ生セス、此再生ハ、獨リ神經纖維ニ
シテ、神經節セルヲ生スルヲナク、知覺神經ハ、運
動神經ニ比セハ常ニ再生シ易シ、故ニ躰中一部
ノ神經ヲ截斷シテ、知覺ハ故ニ復スレド、運動ハ
復セザルヲ多シ、

乙、**神經組織肥大**ハ、多ク筋ノ肥大ト共ニ運動神
經ニ生ス、

丙、**神經瘤**ハ、神經纖維經過ノ際ニ生スルヲアリ、
其截端ニ生スルヲアリ、特ニ其經過ノ際ニ生ス

ルハ、脊髄神經ニ生スルヲ見ル、其他ノ神經ハ、悉、截斷
セル創口ニ之ヲ生ス、此瘤ハ、凡テ神經組織ト結
締織トヨリ成ルナリ、之ヲ**知覺瘤**ト云フ、僅一觸
ル、モ知覺極メテ鋭敏トレバナリ、

第七、**外皮及内皮セル新生**

甲、**其再生**ハ、生理學的ニ之ヲ省ル、例之ハ、皮膚ノ
外皮セル、及、粘膜ノ内皮セルノ新陳代謝ニ於テ
ルカ如シ、又輕傷ノ為メニ皮膚、或ハ粘膜ノ表面
ヲ剥離シ、最外ノ外皮、或ハ内皮セルヲ失フ片ハ、
深部ヨリ新ニセルヲ生シテ、之ヲ補償ス、若、粘膜、

或ハ皮膚ノ創傷ニ由リテ、其部悉壞死スル片ハ、
 新ニ結締織ヲ生シテ、其表面ニ内皮、或ハ外皮セ
 ルヲ再生ス、又潰瘍ニ於テモ、其淺深ニ從ヒテ、セ
 ル新生ノ法前ニ同シ、如斯外皮セルヲ生スルハ、
 常ニ傷部ノ中心部ヨリ始ムルヲアリ、是蓋シ其
 中央ノ侵サル、ト、周圍ヨリ輕キカ故ナラニ、爪
 甲再生ハ、爪床ノ全ク壞死セザル片ニ之ヲ生ハ、
 毛髮ニ於テモ亦同シク、毛球ノ損害ヲ蒙ラサル
 キニ在リトス、若シ之ヲ損スル片ハ、毛髮更ニ再生
 スルヲナシ、皮膚ノ皮脂腺、粘膜ノ粘液腺モ亦一

皮膚學通論 卷之八 三十一

四、破壊スル片ハ、更ニ之ヲ再生スルヲナシ、

乙、外皮及内皮ノ肥大 外皮ノ肥大ハ、胼胝、疣、鱗屑

状剥脱、此剥脱症ハ、專ラ先天病ニシテ、英及贅肉

等ニ於テ見ル、又靴ノ刺衝ニ由リテ、足趾ノ外皮

肥大スルヲ間アリ、蓋外皮ノ肥大スル片ハ、皮膚

ノ乳頭、皮脂腺、毛球モ亦共ニ肥大ス、若單純ノ疣

ヲ切斷シテ、驗スレハ、其外皮、乳頭、及其内ニ布蔓

セル神經纖維モ共ニ肥大セルヲ見シ、又鱗屑状

剥脱、象脚、母斑ニ在リテモ亦然リ、内皮セルノ肥

大ハ、粘膜ノ贅肉是ナリ、例ハ、食喉、舌ニ於テ見

皮膚學通論 卷之八 三十一

ルカ如シ、又慢性粘膜炎ニ於テ、内皮セルノ肥大ヲ見ル、其粘膜、粘液腺ト共ニ肥大ス、例之ハ、鼻痔ノ如シ、其他内皮セルノ瘤状ヲナシテ新生スル者ハ、後條内皮瘤ヲ論スルニ方テ、細述セシ、

第八、腺組織新生 腺ノ再生ハ、未嘗テ之ヲ見ル

ナシ、

甲、腺組織肥大 ハ、其固有組織ノ新ニ生スルニ由

ルトアリ、或ハ唯、腺ノ中隔結締織ノ、増生ニ由ル

トアリ、甲ヲ**真性肥大**ト云ヒ、乙ヲ**假性肥大**ト稱

ス、然レモ、概テ真假ノ二性合併シテ發シ、諸種ノ腺

ニ之ヲ見ル、例之ハ、水脈腺ニ於テ、腺ノ固有組織ト、中隔ト、共ニ肥大スルカ如シ、又司發、汎發ノ別アリ、又特發アリ、繼發アリ、繼發スル者ハ、皮膚、或ハ粘膜ノ炎ニ由リテ、各自ニ其腺ノ肥大スルトアリ、例之ハ、食喉粘膜ノ炎ニ、顎下水脈腺、腫脹スルカ如シ、或ハ梅毒、腺病、癌腫等ニ因リテ、諸部ノ腺、腫脹スルトアリ、多クハ、發炎シテ、醗膿スルトアリ、或ハ乾酪變性シ、或ハ石灰變性スルトアリ、又脾臟ノ如キモ亦肥大シテ、唯、其中隔結締織、或ハマルドギ氏胞ノミニ限ルトアリ、或ハ共ニ肥

原病學通論 卷之八 二十四

大スルヲアリ、而シテ間歇熱後、或ハ「レウケ」病的ニ血中ノ白血球増加ニ於テ、之ヲ見ル、之ト同シク、肝臓モ亦肥大シテ、肝セル、或ハ中隔ノ肥大スルヲアリ、或ハ二症合併スルヲアリ、

乙、腺組織瘤ハ、腺ノ固有組織ノ新生シテ、腫瘍状ニ肥大スルヲ云フ、多ク葡萄状腺ニ之ヲ見ル、特ニ之ヲ發スルハ、乳腺ナリ、英國ニテ、之ヲ慢性乳房瘤ト云ヒ、獨乙ニテハ、アデノマト云ス、此乳房瘤ハ乳腺ノ各葉中ニ、是、腺瘤ノ義ナリ、此乳房瘤ハ、尋常ノ胞ニ類圓躰ヲ新生スルニ由ル、其圓躰ハ、尋常ノ胞ニ類似スレバ、此スレバ大ニシテ具、其位置甚、不整ナ

ルモ、數多ノ細胞、腺ノ周圍部ヲ圍繞シ、空洞ヲナシテ、液ヲ充填ス、而シテ結締織ノ中隔ニテ之ヲ分界シ、排泄管ヲ有セス、之ヲ按シ試ムルニ、通常ノ腺ト異ナルヲナシ、若、此瘤、慢性ニシテ持續スル片ハ、種々ノ變化ヲ受ク、乃、各胞、増大シテ、其内ニ澄液、或ハ粘液ヲ含蓄セル囊腫トナルヲアリ、或ハ細胞、真ノ乳管ヲ壓迫シテ、之ヲ閉塞セシメ、為、ニ其部大ニ膨脹スルヲアリ、之ヲ「シ」スト。サルコマ囊腫ヲ具フル軟ト云フ、或ハ乾酪變性スル性瘤ノ義ナリトアリ、書中ニ「結核作用又胞ヲ分界セル結締織」ト云フト同シ、

増加スル片ハ、纖維瘤ニ變ス、耳下腺、及脾モ亦、其組織肥大シテ、瘤状トナルコトアリ、老者ニ於ケル、
 摂護腺モ亦然リ、此腺ノ肥大ハ、腺固有組織ノ新
 生ヨリ成ルアリ、或ハ此腺、單純ニ増大スルコトア
 リ、或ハ更ニ數葉ヲ生スルコトアリ、由リテ膀胱頸
 ヲ壓迫シテ、大ニ排尿機ヲ妨ルコトアリ、老人ノ排
 尿困難ナ
 ルハ、多クハ、其他、腺ノ肥大ニ罹リ易キハ、甲状腺
 ナリ、之ヲ頸腫ト云フ、其形、同カラス、天單ニ此腺
 ノ胞、ニ肥大スル片ハ、之ヲ單純肥大ト云フ、然
 レハ、多クハ胞中ノ含蓄物、變シテ傑列乙質トナ

ル、之ヲ膠質變性ト稱ス、地腺組織、新ニ圓形瘤状
 ノ者ヲ生シテ、固有ノ腺組織ト全ク分界セルコ
 トアリ、人腺組織ノ一部、囊腫ト為リテ、新生組織ト
 合併スルコトアリ、之ヲシスト、ガルコマト云フ、通
 常血管ノ多ク發育スルヲ視ル、

原病學通論卷之八終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

原病學通論卷之九 目次

目次

補給機變化ニ基テル諸病下

補給機増盛下

第一、結核新生

第二、淋瀝新生

第三、梅毒新生

第四、狼瘡顆粒

第五、癩病顆粒

第六、肉様腫

原病學通論 卷之八 二十七 三友舍

第七、癌腫新生

第八、囊腫

原病學通論卷之九目次甲

原病學通論卷之九

和蘭教師 亞爾茂聯斯 講述

東京 安藤正胤

膳所 村治重厚 筆記

東京 熊谷直温

補給機變化ニ基ケル諸病下

補給機増盛下

上ニ説ク所ノ新生元分ハ其排列固有組織ノ元分ト同一ナルヲア例之ハ腺ノ肥大ニ在リテ腺ノ固有ノ元分ト同質ノ新生ヲナシ其排列モ

亦同一ナルコアルカ如シ之ヲ「ホモプラスチク」
 同質ト云フ、筋骨等ノ新生ニ於リ、或ハ獨リ新生組
 織ノ元分、其質ハ、固有組織ト齊シキモ、其排列ヲ
 異ニスル者アリ、之ヲ「トロプラスチク」異質ト
 云フ、此新生ノ主タル者ハ、**第一、結核新生** **第二、淋**
瓜新生 **第三、梅毒新生** **第四、狼瘡顆粒** **第五、癩病顆**
粒 **第六、肉様腫** **第七、癌腫新生** 是ナリ、其他、膿液モ
 亦異質新生ノ一種ト思考シテ可ナリ、
 此等ノ新生ヲ造成スル主要ノ元分ハ、核及「セル」
 是ナリ、「セル」ハ、通例白血球ニ類似スレド、一種ノ

癌腫ニ在リテ、内皮「セル」ニ類似セル者アリ、或ハ
 單ニ核ヨリ造成スル者アリ、結核新生及「淋瓜新
 生」ノ如シ、或ハ「セル」ヨリ造成スル者アリ、「サルコ
 マ」及「癌腫」ノ如シ、或ハ核ト「セル」ト相混シテ造成
 スル者アリ、梅毒新生及「狼瘡顆粒」ノ如シ、或ハ「セ
 ル」ト核ト不整ニ組織内ニ浸潤スル者アリ、或ハ
 二物相混シテ組織ヲ分裂シ、其間隙ニ停蓄スル
 者アリ、蓋シ此新生ハ、唯「セル」ト核トヨリ造成スル
 者ナリ、或ハ其内ニ中隔結締織ヲ生シテ、脈管ヲ
 具フルモノアリ、皆多少固有組織ヲ類敗ス、又或

ハ局部ノ三之ヲ生シテ、毫モ全身ニ害ナキ者アリ、例之ハ、狼瘡顆粒及梅毒新生ノ如シ、之ニ反シテ、癌腫ノ如ク軟化ノ後、凡ク全身ニ感スル者アリ、或ハ劇熱ノ浸襲ヲ以テ生スル者アリ、例之ハ、泰衰度ニ於ケル淋瀝新生、急性結核、急性癌腫ノ如キ是ナリ、此新生ハ、多ク軟化シ易シ、其軟化ハ、脂肪變性ノ如キ退却ノ變性ニ由レリ、此新生ノ叢起スルハ、其原理、未ク全詳明ナラサレ、唯癌腫ノ如キハ、組織ノ常ニ刺衝セラル、ヨリ叢起スルノ理、得テ察知不可キノ三、

第一、結核新生

「チユバルク」

ハ、核ト僅少ノ「セル」トヲ

新生シテ、無數ノ顆粒狀物ヲ形ツクル、其大小一ナラスト雖、尋常粟粒大ニ起ユルヲナシ、而シテ其限界スル者アリ、組織中ニ布蔓スル者アリ、限界結核ハ、常ニ薄腦膜、肝臟、澄膜ニ之ヲ見ル、其粒狀物、概シテ甚細少ナリ、或ハ稀ニ最大ニシテ豌豆大ノ如キ者アリ、多ク腦内ノ罌丸ト稱スル處ニ生ス、布蔓性結核ハ、泌尿器ノ粘膜、及女子生殖器ノ粘膜ニ之ヲ見ル、通例此粒、小ナル片ハ、其數多ク、大ナル片ハ、唯一個、若クハ數個ナルヲアリ、結核

二二種アリ、一ハ**灰白結核**、一ハ**黄色結核**ナリ、甲種ハ、一ニ**粟粒結核**ト云フ、灰白色半透明ノ小粒ニシテ、稍、硬ク、彈力性アリ、乙種ハ、甲種ニ比スレハ、容積大ニシテ、其中央ハ、黄色ニシテ乾燥シ、周圍ハ、稍、灰白色ヲ帶ヒ、甲種ニ類似セリ、甲種ヲ取リ、顯微鏡ニテ檢スレハ、白血球ニ似タル少量ノセルト、核トヨリ成リ、清澄無形ノ物質存在シテ、之ヲ維持セリ、此物質中ニハ、敗壞セル組織ノ殘餘ヲ含ニ、其中ニ結核ノ毒物ヲ有ス、例之ハ、結締組織、纖維、彈力纖維、腺セル、尿管、及、色素等ノ如シ、黄

色結核ハ、畢竟、灰白結核ノ退却變形、即チ脂肪變性セル者ニシテ、其核、含蓄物ヲ失ヒ、扁平不整形ナル脆弱ノ小體ニ變ス、往昔ハ此扁平ナル小體ヲ結核體ト云ヘリ、是、結核毒ノ徵候ト、看做セシ故ナリ、然レモ、之ヲ以テ其確微トナシ難シ、此萎縮セシ核ハ、終ニ細粒狀ヲナス、之ヲ**デトリウム**有殘留セル物質ノ地ニ義ト云フ、以テ黄色結核ヲ造成ス、如此灰白結核ノ萎縮スル所以ハ、其新ニ生スル代、近傍組織ノ血管ヲ壓迫シテ、其血行ヲ遏止シ、核中少モ尿管ヲ具ヘサルヲ以テ、核ノ營養、自

ラ不給スルニ由ル者ナリ、故ニ黄色結核ハ、灰白結核ノ退却變形シテ萎縮セル者ヨリ他ナラス、是ニ由テ之ヲ觀レハ、灰白結核ハ、終ニ悉小粒状物ト成ルヲ明カナリカナリ、以下黄色結核ノ變化ヲ論ス、

第一 小粒状物ノ血中ニ吸収セラレ、是既ニ論セル膿ノ脂肪變性シテ、盡血中ニ吸収セラレ、ト一理ナリ、何レノ組織ヲ問ハス、一回結核ノ為ニ浸潤セラル、凡ハ吸収シテ後、再固有組織ニ恢復スルヲ得ス、唯結締織ヲ生シテ、其部硬固

トナル、癰疽組織、肺臟、及心臓ニ於テ之ヲ見ル例ハ、肺ノ實質ニ結核ヲ生シテ、其組織ヲ頽廢シ、次テ吸収セラレテ、結締織ヲ生シ、遂ニ其部ヲ硬結スルカ如シ、此硬結ヲ目シテ、**肺臟結核性硬變**ト云フ、然レモ、結核ヲ發生シテ、如斯吸収シ盡スハ、其極メテ微細ナル片ニ在ルノ三、

第二 結核ノ石灰變性ヲ受クルヲアリ、其初小粒状物變脂シ、次テ液分ヲ失、乾燥シテ、乾酪状ヲナシ、其部ニ石灰ノ塩類ヲ沉着ス、乃、**磷酸石灰**、**炭酸石灰**ノ如シ、此ニ由リテ、帶黄白色ノ硬固ナル物質トナリ、通例

新ニ生スル結締織ノ囊中ニ含有セラレテ、組織内ニ存ス、例之ハ、肺及水脈腺ニ、之ヲ視ルカ如シ、此塊、時アリテ硬固ナルヲ、石片ノ如キ者アリ、此第一、第二ノ變化ハ、諸變化中、最ニ天幸ヲ得ルモノ

第三

ハ、通常見ル所ノ變化ニシテ、甚々不幸ノ者トス、即、結核成熟是ナリ、一ニ軟化ト稱ス、黃色結核小粒状物、其粘著性ヲ失シ、柔軟トナリテ、互ニ分離ス、粘膜面ニ在リテハ、然ラスシテ結核性潰瘍トナリ、陥没シテ、凹窩ヲ殘ス、若シ組織内ニ生

スル片ハ、其周圍悉ク組織ヲ以テ圍擁シテ其處ニ空洞ヲ造成ス、又肺臟ニ在ル片ハ、之ヲウイミン肺中ニ聚積セル膿ニシテ、咳嗽ニ由リテ咯出セル者ナリ、ト云フ、○結核性潰瘍ハ、通例初起ハ、細小ナリ、是恐クハ、粘膜中ノ胞内ニ、結核物ノ沉着シテ軟化スル者ナラン、此結核軟化シテ後、陥没セル小潰瘍トナリ、其面ハ黃色結核物ニ覆ハレ、逐次ニ周圍ニ蔓延ス、是軟化セルモノヨリ、更ニ新結核ヲ生シテ、逐部ヲ侵襲スレハナリ、或ハ粘膜ノ皺襞ニ沿ヒテ、蔓延スル者アリ、然ル片ハ、長形ノ潰瘍トナル、例之ハ、腸

原病學通論 卷之九 五 三五

管ニ於テ見ルカ如シ、或ハ一頓ニ粘膜面ニ汎ク
 結核ヲ發生シ、後軟化シテ不整ナル巨大ノ潰瘍
 トナル者アリ、結核性潰瘍ハ粘膜下ヨリ筋層ニ
 達シ、逐次ニ蔓延シテ澄膜ニ波及シ、終ニ之ヲ穿
 通スルコトアリ、然ルキハ、澄膜面ニ多量ノ灰白結
 核物ヲ見ルナリ、其專ラ生スル地位ハ、腸、氣喉、氣
 管及ヒ氣管枝等ノ粘膜是ナリ、又稀ニ泌尿器、生殖
 器、或ハ胆管等ノ粘膜ニ之ヲ見ルコトアリ、結核
 ノ空洞ハ、常ニ圓形ナルモ、稀ニ不整ノ形状ヲ
 ナスコトアリ、其中、稀膿液ト、黄色結核物ノ小粒ト

ヲ含ミ、其大小ハ齊シカラズ、雞卵大ナル者アリ、
 更ニ大ナル者アリ、其内面ハ、黄色結核ノ厚層ヲ
 以テ被覆シ、更ニ新結核ヲ沉着シ、次ニ軟化スル
 ヲ以テ、逐次ニ蔓延シテ、此洞増大ス、是、即チ組織中
 ノ膿瘍ナリ、例之ハ、肺ニ生シ、胸膜腔内ニ穿通シ
 テ、含蓄物ヲ腔内ニ漏泄シ、又皮膚ノ外面ニ穿通
 ス、或ハ罌丸中ニ生シ、瘻管ノ形状ヲナシテ、皮膚
 ニ穿通スルカ如シ、總テ此理ヲ以テ蔓延ス、然レ
 氏、結核物、一時ニ汎ク組織ニ沉着スルキハ、頓ニ
 大洞ヲ造成スルアリ、結核ノ空洞ハ、肺中處トシ

テ生セザルナシ然レ凡、通常ハ、肺、骨、腦、畢丸等ノ
 部位ニ多シトス、結核ノ沉着スル組織ハ、全ク敗
 壞シテ慢性、或ハ急性炎ノ占地トナリ、因リテ其
 部ニ結締織ヲ增生ス、例之ハ、肺臟ニ生スレハ、其
 部ノ胸膜肥厚シテ、其面ニ偽膜ヲ形成シ、又其周
 圍ノ肺組織ハ、敗壞シテ彈力ナキ、堅硬結組織ト
 ナルカ如シ、或ハ組織ニ結核物ノ沉着スルカ為
 ニ、其部ノ血管ヲ閉塞シテ組織ヲ廢壞シ、次ニ軟
 化セシメテ、空洞ヲ造成シ、或ハ血管ニ潰瘍ヲ生
 シテ、大ニ組織内ニ出血ヲ起ス、通例何ノ器械ヲ

問ハス、結核ノ沉着ニ因リテ、器臟ノ空洞ヲ充填
 スルカハ、其機能ヲ失ス、例之ハ、腺ニ在リテハ、排
 泄管ヲ閉塞シ、肺ニ在リテハ、氣胞ヲ閉塞シテ本
 器ノ機能、終ニ廢止スルカ如シ、其肺ニ在ルカハ、
 粘膜ヨリ膿ヲ雜ヘタル粘液ヲ分泌シ、結核ト混
 シテ、氣胞、及ヒ氣管枝末梢ヲ充填シ、終ニ乾燥シテ
 乾酪質ニ化ス、此肺ヲ剖着スレハ、多少ノ氣胞及
 氣管枝ニ、結核ノ小圓形物ヲ見ルナリ、又結核ヲ
 生セル部ノ近傍組織ハ、次急性炎ヲ發スルヨリ、
 左ノ變化ヲ起ス、即チ腦ニ於テハ、其近部ヲ軟化セ

シメ、肺ニ在テハ、其周邊ノ組織ニ發炎シ、時アリ
 テ胸膜ニ炎ヲ併發セシムルカ如シ、
 結核ニ由リテ、全身ニ感作スルハ、第一、局處ノ患
 害ヨリス、例之ハ、肺臟ニ在リテハ、呼吸困難ヲ發
 シテ、全身之ニ感シ、又結核性潰瘍ヲ腸ニ發スレ
 ハ、飲食不化ヲ起スカ如シ、第二ハ結核軟化ノ為
 ニ生スル熱ニ由ルナリ、初起ハ、其熱、間歇性ナル
 モ、後弛張性、稽留熱トナル、又慢性結核ニ在リテ
 ハ、其膿膿荏苒持續スルト久キカ故ニ、他器ノ變
 化ヲ生ス、例之ハ、腸管或ハ腎臟等ニ澱粉變性ヲ

起シ、是、肺、或ハ骨ノ結核ニ由リテ然リ、或ハ營養不給ノ為メニ心
 臟ノ脂肪變性ヲ生スルカ如シ、如此結核ヨリ生
 スル疾病ノ許多ナルカ故ニ、結核ハ、諸病中最、錯
 雜ノ者ニシテ、徒テ其診斷モ亦極メテ難シトス、
 結核ハ、其經過ノ遲速ニ関シテ、之ヲ區別シ、急性
 次急性、及慢性トス、急性結核ハ、二三日、或ハ一周
 間ニ鑄多ノ細小ナル灰白結核ヲ同時ニ諸器ニ
 生ス、例之ハ、肺、澄膜、薄腦膜、肝、脾、腎等ノ如シ、死後
 之ヲ剖觀スルニ、諸器ニ細小ナル灰白結核ヲ生
 シテ、尚、其形狀ヲ存ス、之ヲ急性粟粒結核ト云フ、

此結核ノ發育スル間ハ、高度ノ熱ヲ生シ、泰養土
 熱ノ諸症ヲ顯發ス、次急性或ハ慢性結核ハ其經
 過甚長ク、結核ヲ生スルト最モ緩慢ニシテ、數月
 或ハ數年ヲ踰ル者アリ、然レモ、急性ニ比スレ
 ハ其發熱ノ度甚弱シ、結核ヲ生スル原因ヲ確定
 セント欲シ、種々ノ試驗ヲ施シテ、諸家ノ學說、全
 ク一變セリ、往古ハ、初ニ灰白結核ヲ生シテ、後ニ
 炎ヲ發シ、次テ組織ニ變化ヲ起スト云ヘリ、然レ
 氏、此ハ獨、急性粟粒結核ヲ生スル片ノ三ナラン、
 其組織未、變化セザルニ方リテ、固有組織ニ結核

ヲ生シ、軟化後ニ至リテ、組織ノ變化ヲ起スナリ、
 慢性結核ニ在リテハ、然ラス、試ニ犬馬等ノ皮下
 ニ、瘰癧性膿ヲ注射スレハ、其肺臟ニ、許多ノ黃色
 結核ヲ生スルヲ見ル、若シハ、肺臟ニ生セル黃色
 或ハ灰白結核ヲ取リテ、犬兔等ノ皮下ニ注射ス
 レハ、十日、或ハ二十日ヲ經テ、肺、腸、腸間膜ニ灰白
 結核ヲ生ス、故ニ往古結核ハ、種接方ヨリ傳染ス
 ル者ト思ヘリ、然レモ、輒近ニ至リテ、肺ニ結核ヲ
 生ス可キ物質、種々アルトヲ發明セリ、例之ハ、加
 塔爾ニ由リテ、鼻腔、或ハ氣管、粘膜ヨリ分泌セ

ル粘液、肺炎ニ由リテ滲出セル澄液、腺ノ乾酪變性物、及、諸部ヨリ取レル醇膿等ノ如シ、凡テ此類ノ物質ヲ取リテ、獸類ノ皮下ニ注射スレハ、則チ結核ヲ生ス、或ハ器械的ニ肺ヲ刺衝スル物質、即塵埃、石炭、鉄等ノ分子ヲ吸入スレハ、亦肺ノ結核ヲ誘發ス、例ハ、坑夫、織婦、巻烟草ヲ製スル者、及、総テ塵埃中ニ在リテ、操作スル工夫等ニ於テ見ルカ如シ、此諸物ハ、先ッ肺ノ粘膜炎ヲ起シ、其一分ハ、組織中ニ残留シテ、其小部ニモ亦炎ヲ起シテ、膿ヲ醸膿セシム、膿ノ一分ハ、咯痰ニ由リテ排出スレバ、



他ノ一分ハ、組織中ニ留リテ、乾酪變性ヲ受ケ、一半ハ血管、水脉ヨリ吸収セラレ、近傍、或ハ遠隔ノ組織ニ結核ヲ生ス、例之ハ、肝、肋膜、腹膜ノ如シ、故ニ彼ノ諸品ヲ皮下ニ注射シテ、肺ニ結核ヲ生スルト、其理ヲ同シクス、唯、體內ニテ吸収シ、他部ニ發生スルノ差アルノ三、又吾人ノ體中ニ生シ、肺ノ組織ヲ刺衝シテ、同一ノ機能ヲナス者アリ、例之ハ、鼻腔、氣喉、或ハ氣管枝ノ加多爾ニ由リテ、其粘膜ヨリ分泌セル粘液、膿、及、氣喉、食喉ノ梅毒性潰瘍ノ膿ノ如シ、此等ハ、皆粘膜炎ニ沿ヒテ、肺ニ到

リ慢性炎ヲ起シ、其產物乾酪變性ヲ受ケテ、吸収セラレ、結核ヲ生スルヲ、總テ前ノ如シ、咯血モ亦其半、肺中ニ留リテ、乾酪變性ヲ受ケ、吸収セラレテ、後結核ヲ叢生ス、夫ノ健康ノ人、咯血後ニ結核ヲ患フルヲアルハ此理ナリ、故ニ結核ハ、體中諸種ノ分泌液、乾酪變性ヲ受ケテ、吸収セラレ、ニ由ルト者做シテ可ナリ、乃チ肺炎及ヒ化膿ニ由リテ生スル第二ノ產物ナリ、灰白結核ヲ生スル、精密ノ理ニ至リテハ、未ダ瞭ナラス、然レモ、其初メ毛細管ノ外壁、稍、突出シテ、小結核ヲ生シ、漸次ニ増大

シテ、毛細管ヲ閉塞セシム、但、營養ノ不給ハ、甚々其、發生ヲ扶ク、故ニ囚獄ノ徒、貧窶ノ兒、總テ衰弱ヲ起ス所ノ諸病、例之ハ、瘵、瘵土熱、蜜尿病、梅毒、或ハ胃潰瘍等ニ罹レル患者ハ、輒スレハ、之ヲ叢スルカ如シ、灰白結核ノ一回變シテ、黃色結核ト為ルルハ、顯微鏡ヲ以テ検査スルモ、他ノ乾酪變性物ト、鑿別スルヲ能ハス、各種ノ乾酪變性ノ者ルニ、總テ細小ノ粒狀物ヨリ成レリ、例之ハ、諸種ノ膿、粘液、梅毒新生、癌腫ノ如キモ、乾酪變性ヲ受クレハ、皆黃色結核ト、同一ノ形状ヲ呈ハス、故ニ死後

ニ之ヲ檢スル₁、甚難シトス、往昔ハ其然ル所以
ヲ知ラスシテ、肺、腦、腸、骨等ニ乾酪變性物アルヲ
見レハ、其因ヲ問ハス、皆稱シテ結核トセリ、而シ
テ通常肺ノ慢性結核ト唱フル者ハ、多クハ真ノ
結核ニ非ス、其肺中ニ存セル黄色物ハ、氣管枝粘
膜ヨリ分泌セル粘液、膿、血液、内皮セル、或ハ肺組
織ノ炎ニ由リテ生スル產物ノ、乾酪變性ヲ受ケ
タル者ノ他ナラス、肺ノ氣管枝及氣胞中ニ殘留
シテ、組織ヲ刺衝シ、炎ヲ發セシムルヲ以テ、氣管
枝、其弾力ヲ失ヒ、遂ニ咳嗽ニ由リテ膨大シ、所々

ニ不整ノ空洞ヲ生ス、之ヲ氣管枝膨大症カロエン
シクト稱ス、專ラ肺ノ尖頭ニ生ス、其上部ノ肋骨
ハ、弾力性ヲ具ヘサルヲ以テ、呼氣ノ片モ収縮ス
ル₁少ナキニ由ル、故ニ往時ノ所謂肺結核ノ空
洞ハ、多クハ、氣管枝ノ膨大シテ乾酪變性物ヲ充
填スル者ナリ、或ハ真ノ結核ヲ肺ニ見ル₁アリ、
乃、肺組織、炎ノ為ニ變化セル部ノ周圍ニアリ、此
即變性物ノ、一回収セラレテ、第二發生ノ者ト
ス、腦、腸、水脈腺ニモ亦許多ノ潰瘍及空洞ヲ生ス、
通常之ヲ結核ニ基ツクト思考スレ₁、多クハ其

器ノ炎ニシテ、産物ノ乾酪變性ヲ起スニ由ル、故
ニ結核ノ名ハ、唯、急性粟粒結核ノ三ニ命ス可ク、
而シテ通常唱フル所ノ腦、肺、腸等ノ慢性結核ハ、
其器ノ慢性炎ト稱シテ可ナリ。

第二、淋派新生

ハ、腹部黍裴土熱ニ於テ、腸管ノ
イエル氏腺、撒布腺ニ浸潤セル新生物ヲ謂フ、是
甚、淋派球ニ似タル小セル及核ヨリ成レリ、黍裴
土熱ノ初起、回腸ノ粘膜ニ加荅兩性ノ炎ヲ發シ、
特ニ「イエル氏腺、撒布腺ノ周圍焮赤腫脹シテ
此腺ハ、回腸ノ下部、盲腸ニ近キ處ニ在リ、故ニ黍
裴土熱ノ患者ニ於テ此部ヲ外部ヨリ按スレハ、

疼痛ヲ發スルヲ後、其内部ニ淋派新生物ヲ沉著ス、死後
ニ之ヲ檢スレハ、腫大シテ、尋常ノ水脈腺ニ異ナ
ラス、腺ノ近傍部モ亦腫脹シテ、同種ノ物質ヲ沉
著シ、吸収セララル、ニ由リテ、腸間膜ヲ刺衝シ、之
ヲ腫大セシメテ、蠶豆大、或ハ雞卵大ニ至ルヲア
リ、
此新生物ハ、第一吸収セララル、第二脂肪變性シテ
後乾酪變性物トナリ、健康部ト分界シテ、多少深
キ潰瘍ヲ殘ス、之ヲ黍裴土性潰瘍ト云フ、時トシ
テ全癒スルヲアレズ、或ハ増進シテ腸ヲ穿テ、腹

膜炎ヲ起シテ、死ヲ致ス^トアリ、如此増進スルキハ、出血スルヲ常トス、是、^ニ恭衰土熱末期ノ險症ナリ、第三石灰様ノ硬塊ニ變シテ長ク停滞ス、特ニ腸間膜腺ニ在リ、又腹部恭衰土熱ニ由リテ、他器ノ患害ヲ被ムル^トアリ、即^チ必^ズ脾臟ノ腫脹ヲ發シ、其大^キ或ハ常ニ六倍スルニ至リ、甚^ク柔軟トナリテ、其組織中ニ所謂淋巴新生物ヲ充填ス、又稀ニ肝、腎、或ハ氣喉ノ粘膜ニ、同種ノ物ヲ生スル^トアリ、恭衰土熱ノ局發症ト沈^ニ發症即^チ經久高度ノ熱トノ關係ハ、其理未^ダ審ナラス、レウケミアニ於テ、同種

ノ淋巴新生物ニテ、脾臟非常ニ增大シテ、常ニ五六倍シ、甚シキハ、二十倍ニ至ルヲ見ル^トアリ、又水脈腺ニ沈著シテ、腫脹ス^レトアリ、故ニレウケミアヲ二種トス、一ヲ脾臟^レウケミアトシ、一ヲ水脈腺^レウケミアトス、經久間歇熱ニモ亦多ク脾ノ腫脹ヲ發ス、又腎、肝、及腸管粘膜、扁桃腺ニモ同種ノ物、沈著スル^トアリ、然レモ、常ニ細小ナリ、蓋シ此沈著物ハ、總テ白血球ノ分解ニ由リテ、形成スル者ナラン、

第三、梅毒新生 シヒハ、全身梅毒ニ由リテ、生スル者ニシテ、汎^ク患部ニ散布セル帶白赤色ノ軟塊

ヨリ成リ、外部ニ囊ヲ被フルヲナク、又鄰接部ト判然分界セス、結締織ノ細網中ニ存スル小セルト、遊離ノ核ノ他ハ、別ニ異物アルヲ見ス、是乃チ總テ梅毒性ニ生スル新生物ニシテ、凡百ノ組織及器械ニ之ヲ見ル、例之ハ、生殖器械ノ皮膚、及其他部ニ硬性下疳、或ハ大ナル結節腫コンダヤ生シ、皮下組織、筋、骨膜、骨ニ大小ノゴム腫ゴムヲ散スルカ如シ、又同種ノゴム腫ヲ厚腦膜、薄腦膜、口、食喉、氣喉、氣管枝、或ハ腸管ノ粘膜、及腦、肝、脾等ニ見ルヲアリ、又肺、肝及諸種ノ膜ノ組織原分中ニ

浸潤シテ、散布スルヲアリ、又骨ニ大小各種牙腫瘍ヲ生スルヲアリ、斯ノ諸種ノ疾患ハ、總テ同種ノ新生物ノ沈著シテ成ル者ニシテ、或ハ脂肪變性ニシテ、後全ク吸収セラル、ゴムアリ、是自然ニ出ツルゴムアレトモ、多クハ藥力ニ由ルナリ、例之ハ、水銀、汰化、剥多、亜私、母ノ効ニ由ルカ如シ、或ハ軟化シテ潰瘍トナリ、空洞ヲ生ス、例之ハ、肺ニ生スル者ハ、宛_レ結核物ニテ造成セル空洞ニ匹似スルモ、唯、治シ易キノ三、又骨、皮膚ニ潰瘍ヲ生シテ、凹窩ヲ貽スゴムアルカ如シ、此浸潤ヲ受ケタル組織

ハ多少萎縮ス、又許多ノ内臓ニ生シテ、其組織充
血ノ為、ニ結締織硬變ヲ併發スルコトアリ、例之ハ、
腦、肺、肝、脾、ニ於ルカ如シ、

第四、狼瘡顆粒

ラリ、^リボス、^スグハ、顔面ノ皮膚或ハ口、鼻、

食喉ノ粘膜ニ核トセル^トヲ以テ浸潤セル者ニ
シテ、數多ノ赤色ナル顆粒状物ヲ成ス、此顆粒ハ
初、皮膚ノ深部ニ生シ、通常暫時ニシテ脂肪變性
ヲ受ケ、吸収セラレテ、小癩痕ヲ貽シ、更ニ其周圍
ニ新顆粒ヲ生シテ、同シク逐次ニ癩痕組織ニ變
ス、如斯漸次ニ周圍ニ瀰蔓シテ、遂ニ顔面諸部ニ

液及ヌル者ヲリ、其形狀ニ三種アリ、**甲**ハ皮膚ノ
深部即、真皮ニ生シテ、外表ヲ浸襲セス、故ニ表皮
ハ、全ク健康ヲ失ハス、之ヲ**不爛狼瘡**ト云フ、**乙**ハ、
表皮鱗屑状ヲナシテ逐次ニ剝離シ、其部、多少赤
色ヲ呈ス、之ヲ**鱗屑状狼瘡**ト云フ、**丙**ハ、通常最多
ク視ル所ノ者ニシテ、先、皮膚ノ深部ニ結核ヲ生
シテ漸次ニ増大シ、表層ニ蔓延シテ、遂ニ表皮ヲ
穿テ、潰瘍ニ變ス、之ヲ**狼瘡性潰瘍**ト云フ、此潰瘍
モ亦癩痕組織ヲ成シテ癒工、其周圍更ニ新潰瘍
ヲ生シ、漸次ニ許多ノ皮膚組織ヲ變シテ、癩痕組

織ヲナスニ至ル、粘膜ニ於テモ亦同シ、狼瘡顆粒
ハ、梅毒新生物ト區別ス可カラザルコト多シ、之ヲ
區別スルニ唯、患者ノ未ダ曾テ梅毒ニ感染セザル
ト、驅梅毒療法ノ効ヲ奏セザルトヲ以テス、梅毒新
生ハ、水銀、沃化銅多亜斯母ヲ用ヒテ治スレトモ、
狼瘡ハ、決シテ然ラス、狼瘡ノ療法ハ、鏡劑、或ハ肝
油ヲ内服セシメ、石炭酸ヲ外用スヘシ、又硝酸銀
或ハ砒製ノ腐蝕藥ヲ外用スルモ亦可ナリ、其他
ノ區別ハ、狼瘡ハ、甚々緩慢ナリ、例之ハ、鼻ニ生スル
者ハ、其全蝕ニ至ルマテ概テ五六年乃至十年ヲ經

ルト雖^ニ梅毒ニ於テハ、決シテ然ルコトナシ、
第五、癩病顆粒^レラ^レニ^ラグ^ハ、粒狀蛋白質質中ニ、細
小ノ粒狀セルヲ雜ユル者ヨリ成ル、之ヲ二種ニ
區別ス、曰ク結核性癩病新生、曰ク麻痺性癩病新
生、是ナリ、多クハ二性相混ジテ發スル者トス、
甲、結核性癩病新生ハ、先ツ皮膚ノ諸部ニ赤點ヲ顯
シ、次テ圓形ノ結核ヲ生ス、是、即チ新生ノセルナリ、
通常赤色、或ハ鉛色ニシテ、其大小一様ナラス、特
ニ顔面、耳廓、四肢ニ生ス、皮膚モ亦之ヲ生シテ増
厚シ皺縮シテ、多少其知覺ヲ失ヒ、頭髮ヲ除ク外

八、體毛多ク脱落シ、漸次ニ増進スルハ、結核軟
化シテ、潰瘍トナリ厚痂ヲ被覆ス、其初期潰瘍ニ
變スルノ状ハ、梅毒新生ニ異ナラサルモ、經過ハ
甚々緩慢ナリ、此潰瘍或ハ癒テ、白色放線状ノ瘰癧
ヲ胎ス者アリ、或ハ漸次ニ蔓延スル者アリ、口、舌、
鼻腔、氣喉、氣管枝、腸管、子宮等ノ粘膜モ亦同種ノ
結核、及潰瘍ヲ生スルコトアリ、内臓ニテハ、肝、脾、腎、
子宮、澄膜、水脈腺ニ之ヲ發ス、唯、肺組織ハ、獨、免ル
、コトヲ得ルナリ、

乙、麻痺性癩病新生モ亦同種ノ核及セルヨリ成

ル然レバ、前種ノ如ク腫瘍ノ形状ヲナリス、脊髓
上ニ黄色ノ硬固ナル厚膜ヲ生シテ、脊髓ヲ壓迫
シ、漸次ニ萎縮セシム、故ニ脊髓神經ノ麻痺ヲ起
シテ、知覺運動ノ兩機ヲ失フニ至ル、如斯知覺ヲ
失フニ由リテ其部ノ營養廢絶シ、手指、及足趾頭
ノ皮膚、壞死シテ、遂一其内部ニ及フ、或ハ手掌、足
跗若ハ全肢ニ之ヲ發スルコトアリ、又甚々慢性ニシ
テ數年ヲ經過ス、指頭ニ生シ易キ所以ハ、其知覺
ナキニ由リテ、能ク過劇ノ寒熱等ニ堪ヘ、或ハ壞
疽ヲ生シテ後モ、疼痛ナキヲ以テ、能ク保護セザ

ルニ由ルナリ、
 以上三種ノ新生物ハ、狼瘡、梅毒、癩病、顯微鏡的ニ之ヲ檢
 スレハ、皆殆同一ノ形状ヲ具フレ、氏、病床實驗ニ
 據レハ、各自大異アリトス、

第六、肉様腫

コマルハ、纖維腫ノ種類中ニ算入スヘ
 キ者ニシテ、恒ニ其源ヲ結締織ニ取リ、專種々ノ
 形状ヲナシタルセルヨリ構成ス、例之ハ、圓形ニ
 シテ細小ナル者アリ、巨大ニシテ圓形ナル者、
 リ、或ハ稜状ナル者アリ、之ヲ結束セル物質モ亦
 一樣ナラス、或ハ細小ナル粒状ノセル間質ヨリ

小「ア」リ、例之ハ、脚背腫、鼠蹊腫、根骨、
 脚背、四肢、
 八、
 判、
 要、
 六、
 一、
 小、

レハ、是、其増大ノ極ニ至リ、近傍ノ神經ヲ壓迫ス
 ルニ由ル、而シテ癌腫ノ如ク惡液質ヨリ来ルニ
 非ルヲ以テ、通例全身ヲ侵スヲナシ、然レモ、貴要ノ
 器械ニ生スルキハ、遂ニ全身ヲ侵ニ至ル、例之ハ、
 脊髓、腦、肺等ニ生スルカ如シ、又甚増大スルキハ、
 初起ヨリモ小セルヲ有スル、ト多ク、他ノ器械ニ
 第二ナルコトヲ生シテ、遂ニ全身ヲ犯スニ至リ、
 甚々癌腫ノ性質ニ類似ス、又細小ナルセルヲ多ク
 有スルナルコトハ、大ナルセルヲ少シク有スル
 者ニ比スレハ、危險ナリ、是亦其性癌腫ニ類似ス

ルニ由ル、又其發生部ノ異ナルニ從ヒテ、危險ニ
 輕重アリ、例之ハ、睾丸ニ生スレハ、第二ナルコト
 ヲ他器ニ生シ易ク、腦ニ生スレハ、必唯一個ナル
 カ如シ、ナルコトハ、後ニ軟化ス、通常其中央ニ始
 リ、漸次ニ周圍部ニ蔓延シ、遂ニ潰瘍ニ變ス、或ハ
 内部ニ乾酪變性ヲ起シテ、久時荏苒タル者アリ、
 軟化ノ時間ハ、甚々緩慢ナレド、第二ナルコトハ、第
 一ノ者ニ比スレハ、軟化スルト極々テ速ナリ、
 第七、癌腫ノカタルシハ、惡性腫瘍ニシテ、患者ノ死ニ
 至ルマテ、近傍組織ニ蔓延シ、又體中ノ離隔部ニ

再生スル者ナリ之ヲ區別シテ二トス曰ク内皮
 癌腫曰ク纖維質癌腫是ナリ内皮癌腫ハ種々ノ
 内皮セルヨリナリ例之ハ板状内皮セル及
 纖維之ヲ圍擁シテ蜂窩ヲナス之ヲ癌腫蜂窩ト稱
 ス其中多少ノ澄液ヲ含有ス之ヲ癌腫汁ト謂フ
 而シテ其結締織ハ甚菲薄ニシテ且ツ少ナシト
 ス纖維質癌腫モ亦結締織纖維ノ蜂窩中ニ細小
 ノ圓形セルヲ含填セル者ヨリ成ル其或ハセル
 ノ量少ナクシテ纖維組織ノ量多キ者アリ之ヲ
 硬性癌腫ト云フ例之ハ乳癌ノ如シ又或ハ

纖維組織ノ量少ナクシテ圓形セルノ量多キ者
 アリ之ヲ髓様癌腫ト云フト云フ癌腫ハ軟
 骨ト動脈ノ中層内層トヲ除クノ外ハ総テ諸器
 械ニ生ス尤モ生シ易キ器械ハ子宮特ニ其頸部
 腔陰莖乳房下唇水脈腺肝胃胃管肺腸腹膜靜脈
 骨眼腦腎睪丸舌是ナリ癌腫ハ更ニ之ヲ特發ト
 繼發トニ分ツ甲ハ始メテ侵レタル器械ニ在
 ル者ヲ云ヒ乙ハ其發生ニ二法アリ一ハ水脈ヨ
 リ特發癌腫ノセルヲ吸收シテ患部ニ近逼セル
 第一列ノ水脈腺ニ運輸シ其腺ヲ腫大セシメテ

癌腫ヲ繼發ス、一ハ、癌腫セル血管ニ吸収セラレ、
 血行ニ隨フテ、遠隔ノ器械ニ至リテ、續發スルナ
 リ、例ハ、乳癌ニ於テ、腋下腺ニ繼發癌腫ヲ生シ、陰
 莖ノ癌腫ニ於テ、鼠蹊腺ニ癌腫ヲ續發シ、例甲或ハ
 眼球癌腫ニ罹ルノ後、肺、肝等癌腫ヲ繼生スルカ
 如シ、例乙癌腫ハ總テ末期ニ至レハ、其中央ヨリ軟
 化シ來リ、漸次ニ周圍ニ波及シ、遂ニ破潰シテ、須
 臾ニ不整ナル大潰瘍トナリ、常ニ血液ヲ混セル
 澄液ヲ漏泄シテ、速ニ増大ス、次テ近傍ノ水脉腺
 腫モ亦増大シ、多クハ軟化シテ潰瘍ニ變ス、癌腫

ハ、大抵一回截除スト雖、再同處ニ生シ、若ハ遠隔
 部ニ生ス、故ニ荏苒蔓延シテ死ニ届ル者ト謂フ
 一シ癌腫ハ、總テ一回潰瘍ト為リ、或ハ内臓ニ繼
 發スル片ハ、必、全身ノ惡液症ヲ發ス、乃、慢性貧血
 ノ景況ニシテ、初ハ、間歇性ノ熱ヲ發シ、後ニハ、稽
 留シテ、顔面灰白色ヲ呈シ、且、大ニ發汗、下利シ、遂
 ニ削瘦シテ斃ル、其惡液病ヲ繼發スル者ハ、潰瘍
 ヲリ、斷エス蛋白樣質ノ液ヲ耗シ、又血液ヲ失ヒ、
通例血ヲ漏ス、多疼痛ニ由リテ、睡眠ヲ妨ケ、腐敗
 膿吸収セラレ、食氣ヲ失ヒテ、營養不給トナリ、緊

要ノ器械、例之ハ、腦、肺、肝、腸等ノ如キニ、癌腫ヲ繼
 生シテ、其官能ヲ妨クルニ在リ、多クハ、其經過、極
 テ緩慢ナリ、例之ハ、内皮癌腫ハ、十年間ヲ經テ、斃
 ル、者アルカ如シ、然レモ、或ハ亦半年許ニシテ
 斃ル、者アリ、其中等ハ、略三年ヲ常トス、時トシ
 テ經過急速ナルトアルモ、是皆繼發性癌腫ニシ
 テ、特發性ノ者ハ、總テ慢性ナリ、

甲、内皮癌腫ハ、之ヲ區別シテ三種トス、**天**板状内
 皮癌腫「カ」類、「ク」類、「ロ」類、唇特ニ下唇、頰ノ内面、陰莖前
 皮、大小陰唇、子宮、肛門、食喉、氣喉、口蓋、指等ニ多ク、

解剖局ノ奴僕、之ヲ指頭ニ生スルト間々、細小ナ
 リ、是常ニ腐敗汚穢ノ物ニ觸レハナリ、細小ナ
 ル硬結、或ハ瘡瘍、或ハ皮膚ノ剥脱ニ始リ、漸次ニ
 増大シテ、愈、硬固トナリ、次テ其中央軟化シテ、潰
 瘍トナリ、漸々蔓延ス、此潰瘍ハ、灰白豚肉状ノ陥
 没面ヲ具ヘ、通例圓形ニシテ、其周圍ニ觸ルレハ、
 恰、硬環ノ如ク、忽、近傍ノ水脈腺ヲ腫脹セシメ、速
 ニ蔓延シテ、大ニ組織ヲ荒蕪ス、嘗テ一婦人ノ大
 陰唇ニ生シテ、半年間ニ陰唇及肉様尖ヲ悉崩壞
 セシトアリ、其未増大セス、近傍ノ腺腫脹セサル
 時ニ於テ、試ニ截去スレハ、幸ニ再生セサルトア

り、或ハ多年ノ後、再生スルコトアリ、或ハ其部ニ生
 セス、近傍ノ腺、腫脹シテ潰瘍トナルコトアリ、之ヲ
 療スルニ他ノ良策ナシ、或ハ潰瘍面ニ一種ノ變
 形ヲ呈スルコトアリ、即チ皮膚、或ハ粘膜ノ乳嘴、肥大
 シテ、贅肉状ヲナス、特ニ婦人ノ生殖器ニ生スル
 氏ニ多シ、之ヲ乳嘴面ヲ有スル、癌腫ト云フ、**地圓**
 柱状内皮癌腫ハ、結締織ノ間隙ニ圓柱状内皮ヲ
 充填スル者ヨリ成リ、專ラ胃ノ幽門、子宮、膀胱ニ
 生シ、繼發性癌腫ヲ生シテ、近傍ノ器械ニ波及ス、
 例之ハ、胃ノ幽門ニ生シテ、大網、或ハ肝ニ蔓延シ

子宮ニ生シテ、直腸、膀胱ニ蔓延スルカ如シ、又皮
 膚ニ生スルコトアレトモ、極メテ稀ナリ、皮膚ニ生
 スルハ、多クハ前種ノ者トス、或ハ内皮セル間ノ
 結締織、漸次ニ肥大シテ、織毛状ヲ呈シ、潰瘍面ヲ
 被覆スルコトアリ、之ヲ織毛内皮癌腫ト云フ、是内
 皮癌腫ノ結締織、肥大ヲ生スル者ノ他ナラス、人
 此内皮癌腫ハ、腺ノ内皮ニ類似セル内皮ヲ含有
 シ、腫瘍状ヲナシテ、腺組織中ニ存ス、例之ハ、乳腺、
 肝臟、唾腺、腺、腎臟、睪丸ノ如シ、而シテ癌腫ヲ
 水脈腺ニ繼發ス、總テ内皮癌腫ハ、内皮セルヲ具

フル部分ニ、多ク生スル者ナリ、

乙、纖維質癌腫ハ、硬軟ノ兩種ニ分ク、**乾**硬性癌腫ハ、專ラ結締織ヨリ成リ、唯僅少ノセルヲ含有シ、其初ハ、小ニシテ蠶豆大ノ結核状ヲナシ、荏苒數年ニ及フ、故ニ患者自ラ知ラサルヲ多シ、例之ハ、婦人ノ乳腺ニ生シテ自ラ覺ユルニ至ルハ、數年前既ニ生セルカ如シ、其最ニ生シ易キハ、婦人ノ乳房ニシテ、其他皮膚、粘膜、澄膜、及總テ結締織ノ存スル諸部ニ之ヲ見ル、通常乳嘴ノ近傍、或ハ乳房腺ノ外表部ニ生シ、其發育甚々緩慢ナリ、後ニ結核状物ノ

周圍ニ小結核ヲ新生シテ相癒合シ、直ニ皮膚及近傍部ト癒合シテ、移動スヘカラサレニ至リ、乳嘴内ニ牽引セラレテ陥没ス、是硬性癌腫ノ確兆ナリ、其初起ハ、通常疼痛ヲ發セザレバ、成長ノ後ハ他ノ癌腫ト同シク、軟化ヲ來タシテ疼痛ヲ發シ、皮膚充血シテ帶藍赤色ニ變シ、皮表ノ靜脈怒張シテ終ニ潰瘍ヲ續生ス、此潰瘍ハ、其形不整ニシテ周縁隆起シ、闇赤色ニシテ、瘍面甚々不潔ナリ、且腋下水脉、及水脉脈共ニ腫脹シテ、觸知ス可キニ至リ、遂次ニ増大スル代ハ、全身惡液病ヲ發

ス、此癌腫ハ四十歳以上ニ非レハ、之ヲ生スルコ
 ナシトス、又一種ノ異症アリ、乳腺ニ生シテ潰瘍
 トナラス、其周圍ニ數個ノ腫瘍ヲ新生ス、當ニ乳
 腺ノミナラス、逐次ニ其周圍部ニ蔓延シテ、筋、肋
 骨、胸膜ヲ蝕スルニ至ル、此症モ亦終ニ軟化ス
 レ、潰瘍トナラスシテ、皮下ニ結締織ノ瘢痕組
 織ヲ生ス、此法ヲ以テ、或ハ乳腺、筋、肋間部ニ至ル
 マテ、悉ク一齊ニ癒合シテ石ノ如ク硬塊ニ變スル
 コトアリ、之ヲ胸甲癌腫ト云フ、亦遂ニ死ヲ將來ス、
 是、胸膜ニ波及シテ、胸膜炎ヲ發スルニ由リ、或ハ

汎發ノ惡液病ニ由ルコト、**坤**軟性即髓様癌腫モ
 亦纖維質癌腫ノ一ニシテ、結締織ノ間隙ニ圓形
 ノ小セルヲ含有スル者ヨリ成ル、故ニ此癌腫ヲ
 截レハ、數個ノ白キ圓塊アリ、柔軟ニシテ、其狀陰
 豚肉ノ如ク、各結締織ヲ以テ分界シ、盡ク細小ノ
 セルト、癌腫汁トヨリ構造シ、之ヲ壓スレハ、多ク
 白色ノ液ヲ滲出ス、又腦質癌腫ノ名アリ、是其甚
 腦ノ白質ニ類似スルヲ以テナリ、或ハ多量ノ結
 締織ヲ含ミテ、纜ニ一個ノ白塊ヲ有スル者アリ、
 或ハ些シモ結締織ヲ含マスシテ、悉ク白塊ヨリ成

レル者アリ、初起ハ、細小ナル硬結腫ナレモ、前種ニ比スレハ、甚速ニ發育シテ盛ニ増大シ、時アリテ、兎頭大ニ至ル者アリ、例之ハ、肝ニ於テ見ルカ如シ、又硬性癌腫ハ、四十歳、或ハ四十五歳ヲ越ユル者ニアラサレハ、生ヒスト雖此癌腫ハ、却テ嬰兒、少壯ノ徒ニ多シ、例之ハ、初生兒ノ睪丸ニ生スルカ如シ、若シ皮下ニ生スルハ軟化スルヲ甚速ナリ、先ッ柔軟ナル腫瘍ト為リテ、之ニ觸ルレハ、稍波動状ヲ覺エ、遂ニ大潰瘍ニ變シテ恒ニ多量ノ癌腫汁ヲ漏泄ス、若シ内臓ニ生スルハ、潰瘍トナ

ラスシテ、非常ニ増大シ、汎發悪液病ヲ發シテ、死スルヲ常トス、此腫瘍ハ、通例、其疼痛強ク、且、忽軟化スルヲ以テ速ニ全身悪液病ヲ發シテ、必、繼發性癌腫ヲ生ス、硬性癌腫モ亦、繼發性癌腫ヲ生セサルニ非スト雖、此症ノ多キカ如クテラズ、特ニ生シ易キハ皮膚ノ諸部、肝、乳房、骨、水脈腺等ナリ、色素癌腫ハ、髓様癌腫ノ一ニシテ、其構造ハ髓様癌腫ニ異ナラスト雖、兼テ多量ノ色素粒状物ヲ含有シ、髓様ノ者ニ比スレハ稀ナリ、專ラ色素ヲ含メル器械ニ生ス、例之ハ、眼ノ脈絡膜、皮膚ノ

如シ、此モ亦速ニ繼發癌腫ヲ諸器ニ生ス、其續發
 スル者ハ、或ハ尋常ノ髓核癌腫ナルコアリ、或ハ
 色素癌腫ナルコアリ、又纖維癌腫ノ一種ニシテ、
 癌汁ヲ含マスシテ、傑列乙様物ヲ含メル者アリ、
 即纖維組織ノ間隙ニ、傑列乙ヲ充填シ、通常唯少
 量ノ「セル」ヲ含有ス、之ヲ「コロイド」カ「セル」膠様
 又傑列乙様癌腫ト云フ、多ク胃、大腸、腹膜等ニ生
 シ、腫瘍ヲナサスシテ、組織中ニ汎ク散布ス、而シ
 テ繼發性癌腫ヲ生スルコト甚稀ナリ、骨質癌腫モ
 亦纖維癌腫ノ一ニシテ、結締組織ノ多少變シテ骨

「セル」トナレル者ナリ、通常骨膜ニ發生ス、其繼發
 性癌腫ハ、水脈腺、肺、腎ニ生シ、特發癌腫ニ比スレ
 ハ、細小ノ圓形「セル」ヲ多ク有スルヲ以テ柔軟ナ
 リ、其他癌腫中ニ囊腫ヲ含メル者アリ、之ヲ囊癌
 腫ト云フ、特ニ腺ニ發生ス、例之ハ、卵巢、睪丸ノ如
 シ、
 許多ノ癌種ハ、其因未詳ナラス、然レモ專ラ其素
 因トナル者ハ、年齒例之ハ、硬性癌腫、内皮癌腫ハ、
 幼老人ノ三ニ生シ、或ハ婦人ノ生機一變即生殖
 器ノ萎縮スル初期ニ於テ癌腫ニ罹ル者多キカ

如シ、又一部ノ警留セル器械的及化學的刺衝ニ由ル例之ハ、喫煙家ノ下唇、又胃、陰莖、子宮頸等、總テ外物ノ刺衝ニ罹リ易キ部分ニ生スルカ如シ、
第八、囊腫ハ、纖維組織ノ囊ヨリ構成シテ、諸種ノ含蓄物ヲ有ス、其囊多クハ内皮セルニテ包裹セリ、而シテ其類數種アリ、之ヲ左ニ枚舉ス、

天常態腔洞ノ擴張ヨリナレル囊腫ハ、更ニ之ヲ五類ニ分ツ、**甲**ハ、澄膜腔ノ澄液ヲ充テ、擴張スルヨリ成レル者ナリ、然レモ、其形恰モ腫瘍状ヲナスニ非レハ、此名ヲ命セス、又粘液囊ノ擴張ニ由

リテ成ル者アリ、澄膜腔ヨリ成レル者ハ、例之ハ、**畢**九、莢膜ノ水腫、或ハ精系ノ外部ニ生セル囊腫ハ、**畢**九、莢膜ノ全然閉鎖セサルニ由ルカ如シ、然レモ、澄膜腔ノ膨脹ハ多ク腫瘍ヲナサ、ルヲ以テ、通例之ヲ水腫ト云フ、例之ハ、胸膜腔水腫ヲ指シテ、囊腫ト稱シ難キカ故ニ胸水ト云フカ如シ、又粘液囊ヨリナレル者ハ、例ハ、膝蓋ト皮膚トノ間ニ存スル粘液囊ニ生シテ、拳子大ニ至ルヲアルカ如シ、此囊腫ハ、膝關節ト交通スル者ニ非ス、英國ノ俗之ヲ又筋及腱ノ莢膜ニ生ス、特ニ手ニ多シ、或ハ腱膜ニ生スル

「ア」リ、總テ之ヲ「ガ」ン「グ」リ「ア」^{結節}ト云フ、粘液囊ニ
 モ亦之ヲ生スレ、氏多クハ「サ」イ「ノ」ビ「イ」ア囊ニ生スル
 者ナリ、又「ガ」ン「グ」リ「ア」ノ一部ト、關節ノ「サ」イ「ノ」ビ「イ」ア
 膜腔ト、交通スル者アリ、又舌下腺上ノ「サ」イ「ノ」ビ「イ」ア
 囊ノ擴張ニ由リテ、生スル「ア」リ、舌擊帶ノ側方ニ
 腫起ス、之ヲ「ラ」ニ「ラ」^腫ト云フ、乙ハ、密閉胞ノ擴張
 ニ由リテ、生セル囊腫ナリ、例ハ、卵巢ノ囊腫ハ、「グ」ラ
 「ア」ン胞中ニ澄液ヲ充填シテ、擴張スルニ成ルカ
 如シ、即「ク」ラ「ヒ」ア「ン」胞ノ水腫ナリ、又「マ」ル「ビ」ギ胞ノ
 水腫ニ由リテ、腎ノ囊腫ヲ形成ス、又甲状腺ノ胞、擴

張シテ囊腫ヲ成シ、其所有物ハ、純粹ノ澄液ナル
 アリ、或ハ膠樣質ナルアリ、**丙**ハ、粘膜ニテ、包裹ヒ
 ル管ノ擴張ニ由リテ、囊腫ヲ生スル者、例之ハ、腺
 ノ排泄管ニ於ケルカ如シ、是、通常粘膜ノ「カ」タル
 性炎後ニ、其管狹窄シ、管壁ハ、其彈力ヲ失ヘルヲ
 以テ、分泌液ノ為ニ擴張スルニ由レリ、膽囊水腫、
 喇叭管水腫、蟲樣無水腫、腎盂水腫ハ、皆此法ヲ以
 テ形成ス、氣管枝モ亦膨大シテ囊ヲ生スル「ア」
 リ、或ハ子宮ノ腔内ニ澄液ヲ充テ膨大スル「ア」
 リ、通常之ヲ子宮水腫ト云フ、初起ハ、皆粘液ヲ含

ムト雖一圓膨大スルハ、粘膜上ノ圓柱狀内皮
セル變シテ澄膜上ノ板狀内皮セルト為リ、且粘
膜ニ變シテ澄膜ト為リ、純粹ノ澄液ヲ分泌スル
ニ至ル、子宮水腫ノ如キハ、此法ヲ以テ悉、澄液ヲ
充填シテ尋常ノ囊腫ニ變スル者ナリ、**丁**ハ腺ノ
排泄管或ハ胞ノ閉塞シテ、分泌物ヲ蓄積スルコ
リ生シ、其胞、或ハ管、擴張シテ壁モ亦增厚ス、其所
有物ハ腺ノ分泌物ナルトアリ、或ハ粘膜變シテ
澄膜トナリシ後、澄液ヲ有スルトアリ、此囊腫ヲ
閉塞囊腫ト云フ、其因ハ、壓迫、或ハ炎ニ由リ、瘢痕

ニテ管ヲ壓迫シ、或ハ分泌物ノ變性ニ由ル、又皮
膏ニ生スルトアリ、之ヲ粟粒腫ト云フ、肉刺モ亦
然リ、是皆皮脂腺ハ腫脹セル者ニシテ、即ち皮脂腺
ノ炎、或ハ其分泌液ハ濃厚トナリ、脂腺多ク閉塞
スルニ由レリ、又粘液胞ハ閉塞ニ由リテ粘膜炎
生スルトアリ、例之ハ、唇及、口腔ノ粘膜炎於ケル
カ如シ、其他胃、腸、子宮、膀胱、婦人ノ尿道、ハイモル
洞等ノ粘膜炎生ス、又乳房腺、唾腺、睪丸、腎臟等ニ
於テ、之ヲ見ルトアリ、**戊**ハ、先天囊腫ニシテ、多ク
ハ管ニ生ス、例之ハ、喇叭管ノ如シ、又子宮ノ廣韌

帶、肝ノ圓靱帶、厚脊膜ニ之ヲ視ル、或ハ毛髮齒牙
ヲ含ムル者アリ、之ヲ皮様囊腫ト云フ、皮膚卵巢
ニ之ヲ見ル、

〔地〕血液滲漏ヨリ囊腫ヲ形成ス、先血液ノ周圍ニ
結締織囊ヲ生シテ、之ヲ圓包シ、囊ハ裡面ハ、内皮
セルニテ被覆ス、而シテ血液ハ、吸收セラレテ、唯
澄液ヲ充填ス、卒中後ニ腦ニ生シ、又大出血後ニ、
皮下筋間ニ生シ、又卵巢面及腎臟ニ之ヲ見ル
アリ、

〔人〕結締織ヨリ構成スル囊腫ニシテ、即其纖維間

漸次ニ擴張スルニ由ルナリ、亦内皮セルニテ
包裹ス、腫瘍中ニ囊腫ヲ混スルハ、此法ヲ以テ形
成スル者ナルハ、例之ハ、囊腫「サ」ル「マ」ナ如シ、
又常ニ壓迫ヲ受クル部ノ皮下組織ニ生スルモ
亦此法ニ由レリ、之ヲ異態粘液囊ト云フ、例之ハ、
擔重者ノ肩、萎躄ノ膝或ハ半盤瘡下ニ生スルカ
如シ、又骨ノ突起上ニ生ス、例之ハ、棘状突起ノ如
シ、又寄生ニ由リテ囊腫ヲ生スルコトアリ、
各種ノ囊腫ハ、單一ナルト、複雑ナルトアリ、甲ハ、
圓形ノ纖維維囊ヨリ成リテ、唯一腔ヲ有シ、内皮セ

此之ヲ包裹ニシテハ通常其形不整ニシテ許多ノ
 細囊ヲ有シ其囊多クハ分隔スレド稀ニ相交通
 スル者アリ而シテ多ク甲状腺卵巢ニ生ス各種
 ノ囊腫ノ所有物ハ一様ナラス單純ノ澄液ニシ
 テ蛋白質ヲ多少溶孕スル者アリ或ハ血液ヲ交
 ヘテ淺紅色ヲ帶フル者アリ又膠様質ヲ含メル
 者アリ甲状腺卵巢ノ囊腫ニ於テ之ヲ見ル或ハ
 粘液脂油質コレステリン結晶内皮セル毛髮齒
 牙ヲ含メル者アリ
 原病學通論卷之九大尾



官版 講筵筆記

全部四十冊

官版 藥局方

寸珍本 一冊

外科 拾要

全部八冊

原病學通論

全部九冊

消毒新論

全一冊

發兌書林

山中市兵衛

